

(6) 上陳東地区

上陳東地区では西側測線において地中レーダ探査(50MHz)ならびに表面波探査を、東側トレンチ近傍測線において地中レーダ探査(50MHz)を実施した。調査内容を以下より示す。

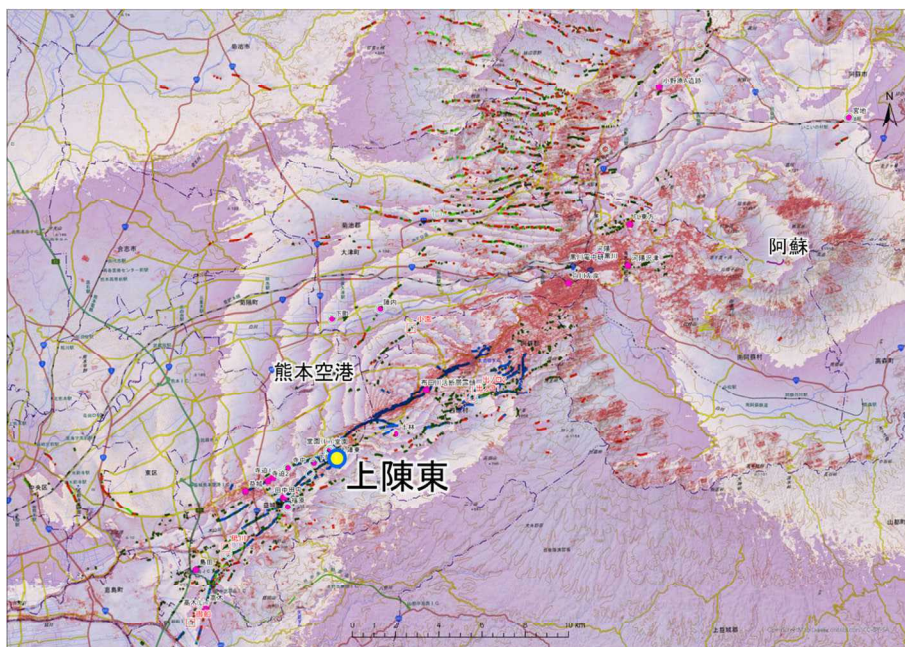


図 2.3.77 調査位置図(上陳東)



図 2.3.78 現地状況(上陳東:測線状況)

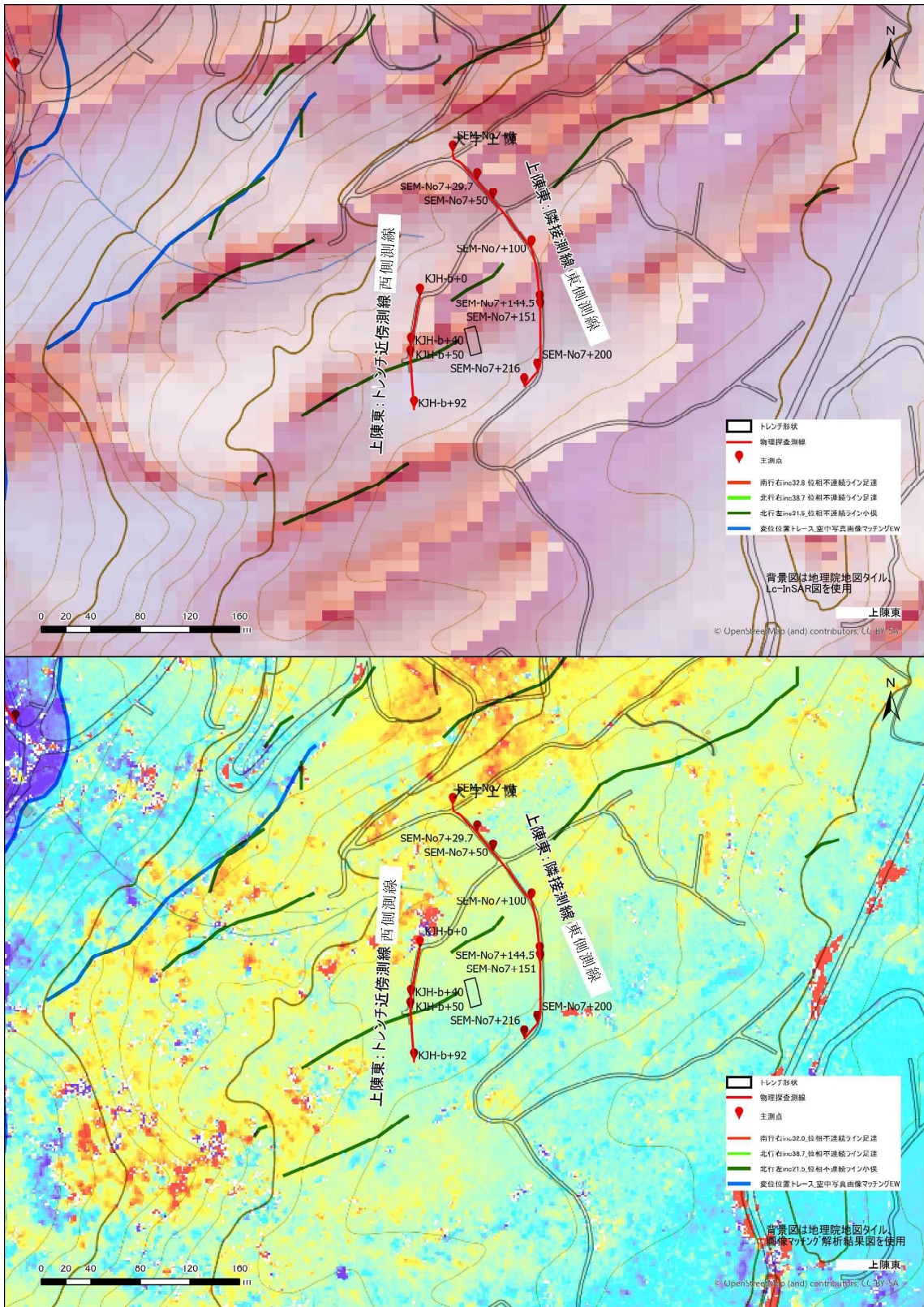


図 2.3.79 探査測線（上陳東）

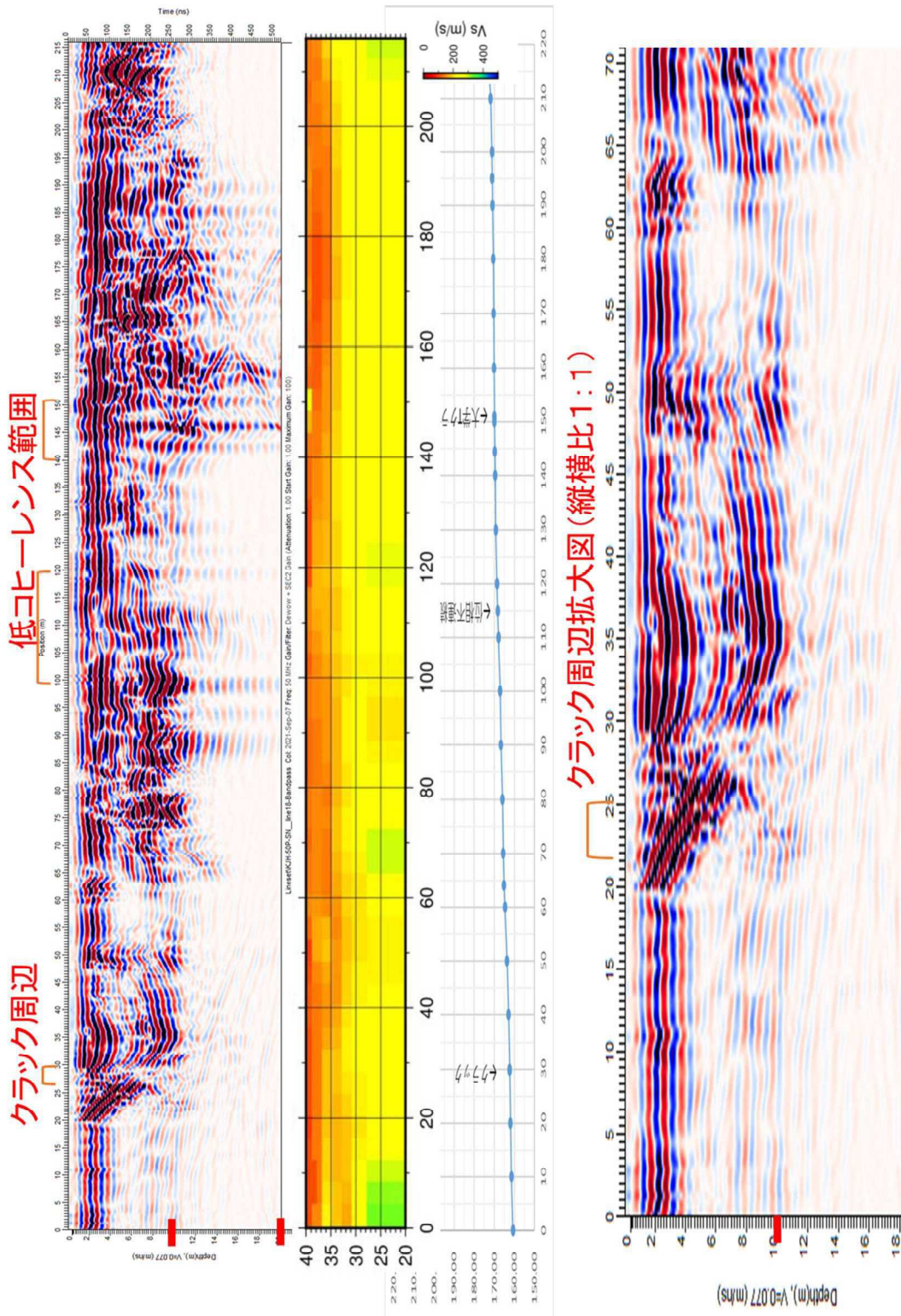


図 2.3.80 上陳東地区 (隣接 : 東側測線) 探査結果 (上・下 : GPR\_50MHz、中央 : 表面波探索)

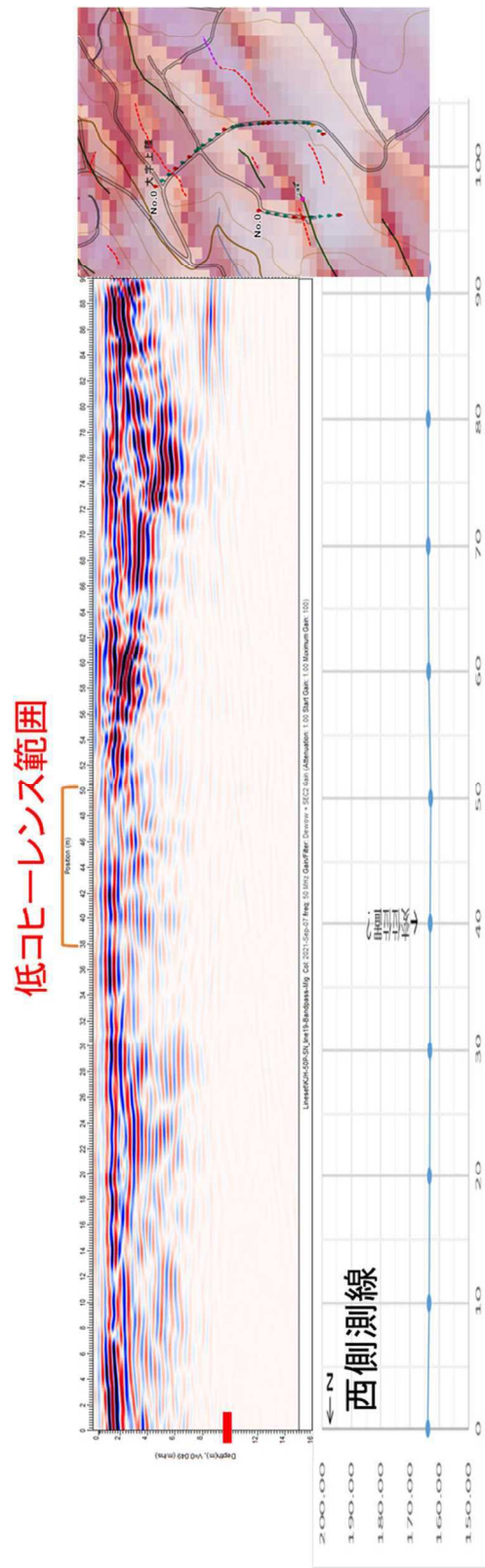
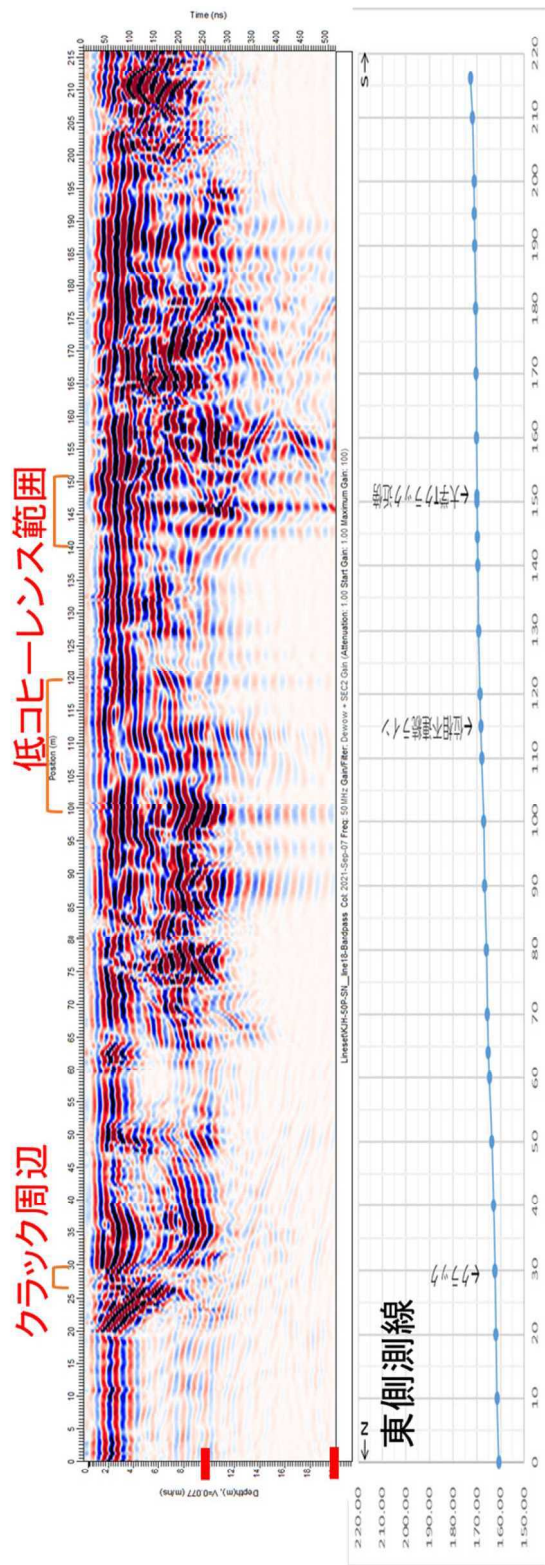


図 2.3.81 上陳東地区（東西断面比較） 探査結果（GPR\_50MHz）

上陳東地区 50MHz 測線 (東側測線)

断面は、測線位置 0-20m の範囲では、連続性のよい反射面 (黄色破線) が確認される。測線位置 20-45m の範囲では、反射面の連続が下に凸になるような形状を示し、その深度は 4m から最大で 10m 程度までとなる。断面は、測線位置 45-216m の区間では、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射 (水色破線・水色曲線) の影響を強く受けているため、地中からの反射が読み取れない。深度 4m 付近を境に、それ以後では電磁波が大きく減衰する。クラック周辺をみると、反射面の不連続が確認される (赤色破線)。低コヒーレンス範囲をみると、反射面の不連続が確認されるが、周辺には地上構造物の反射 (水色破線) がみられることから、確實ではない (赤色破線)。測線位置 140-150m の範囲では、反射面はほぼ水平に連続し、不連続などはみられない。断面全体にわたって確認される反射強度の強い多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射 (水色破線・水色曲線) であると推定される。

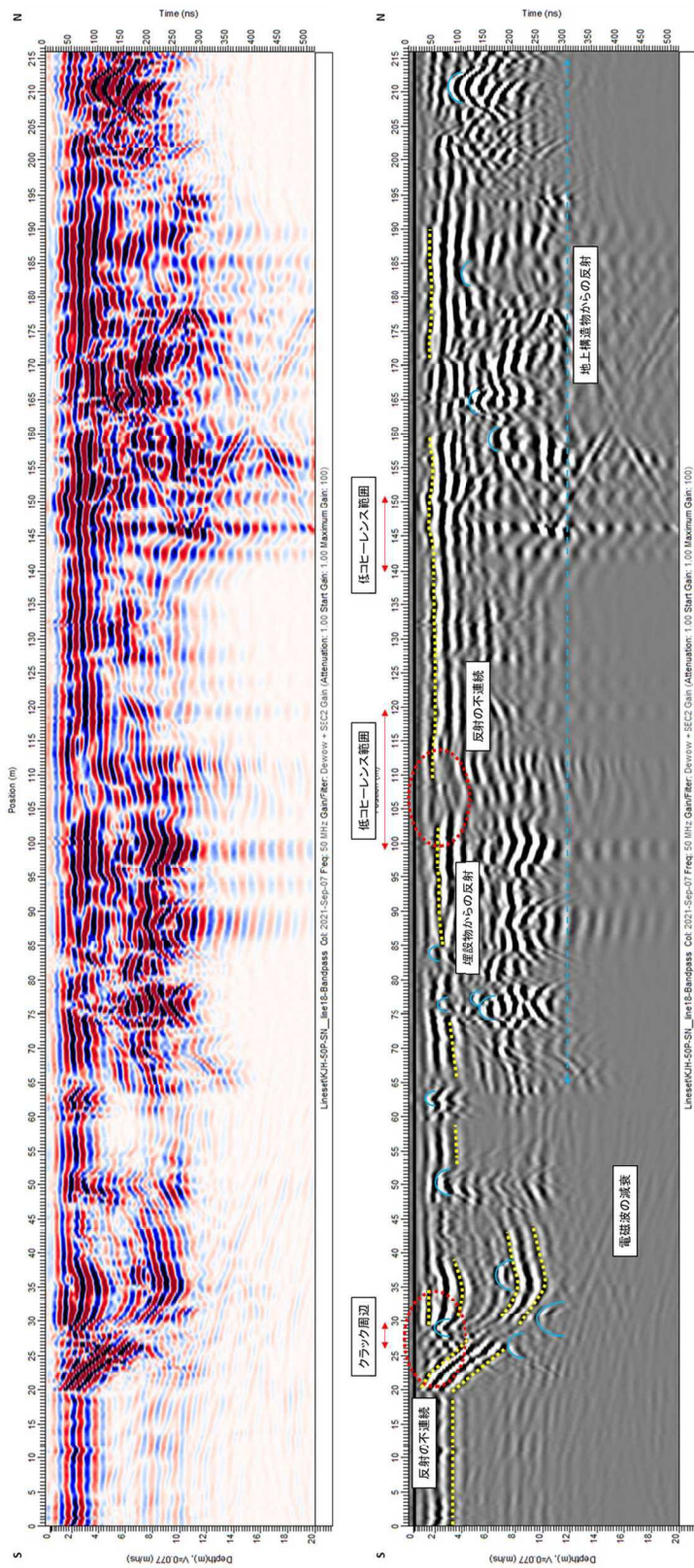


図 2.3.82 上陳東地区 (東側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

上陳東地区 50MHz 測線 (西側測線)

断面は、測線位置 0-50m の範囲では、比較的明瞭な連続性のよい反射面 (黄色破線) が確認される。測線位置 50-90m の範囲では、反射面の連続性が下になるような形状を示し、その深度は 2m から最大で 7m 程度までとなる。深度 3m 付近を境に、それ以深では電磁波が大きく減衰する。低コヒーレンス範囲をみると、測線位置 45-49m の範囲では、反射強度に違いがみられるが、明瞭な反射面の不連続や高度差はみられない (赤色破線)。

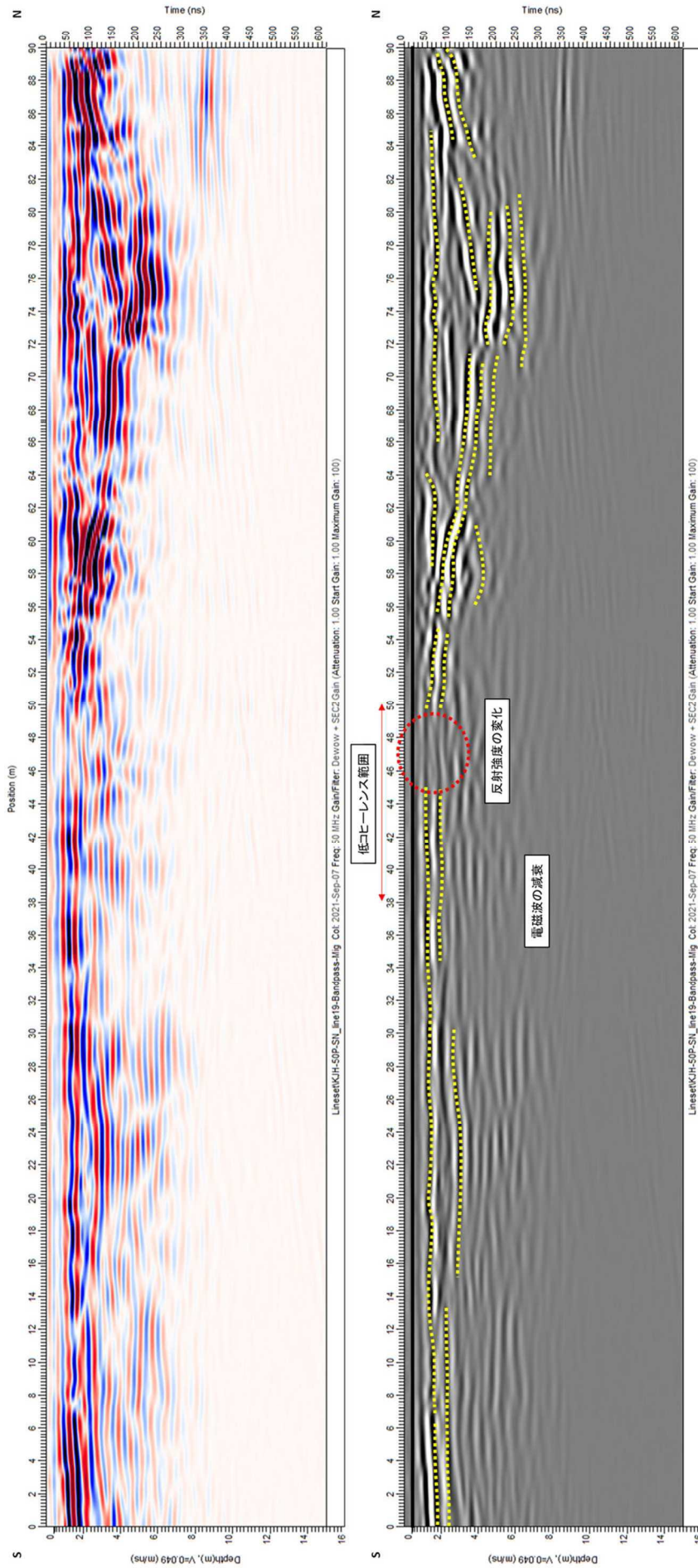


図 2.3.83 上陳東地区 (西側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

(7) 土林地区

土林地区では地中レーダ探査（50MHz）および表面波探査を実施した。調査内容を以下より示す。

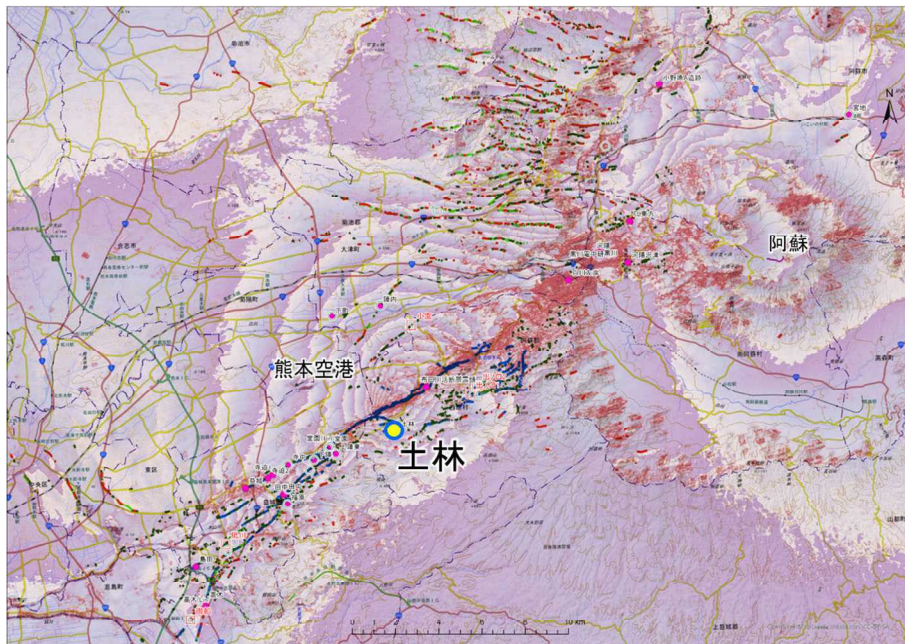


図 2.3.84 調査位置図（土林）



図 2.3.85 現地状況（土林：測線状況）

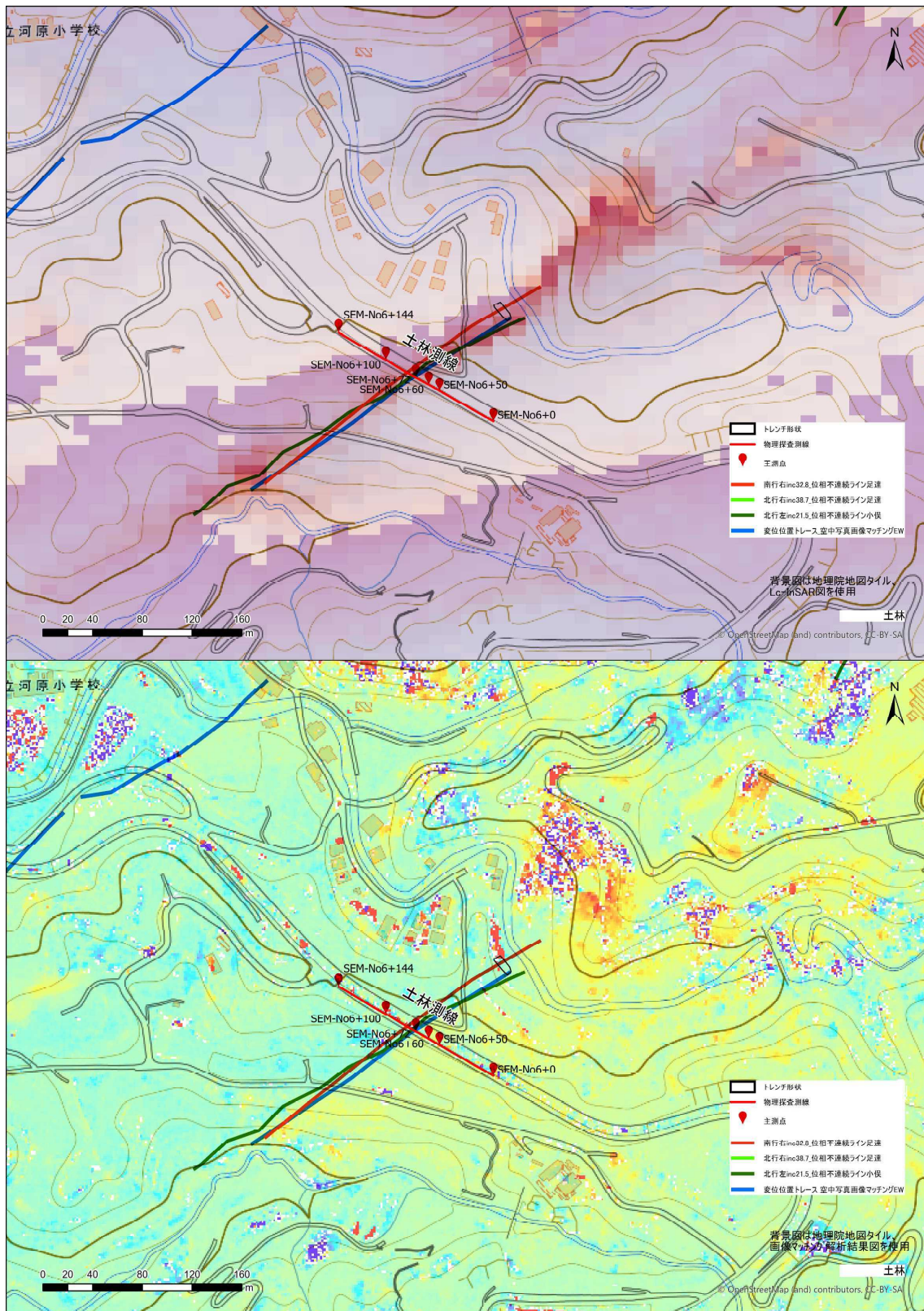


図 2.3.86 探査測線（土林）



クラック周辺

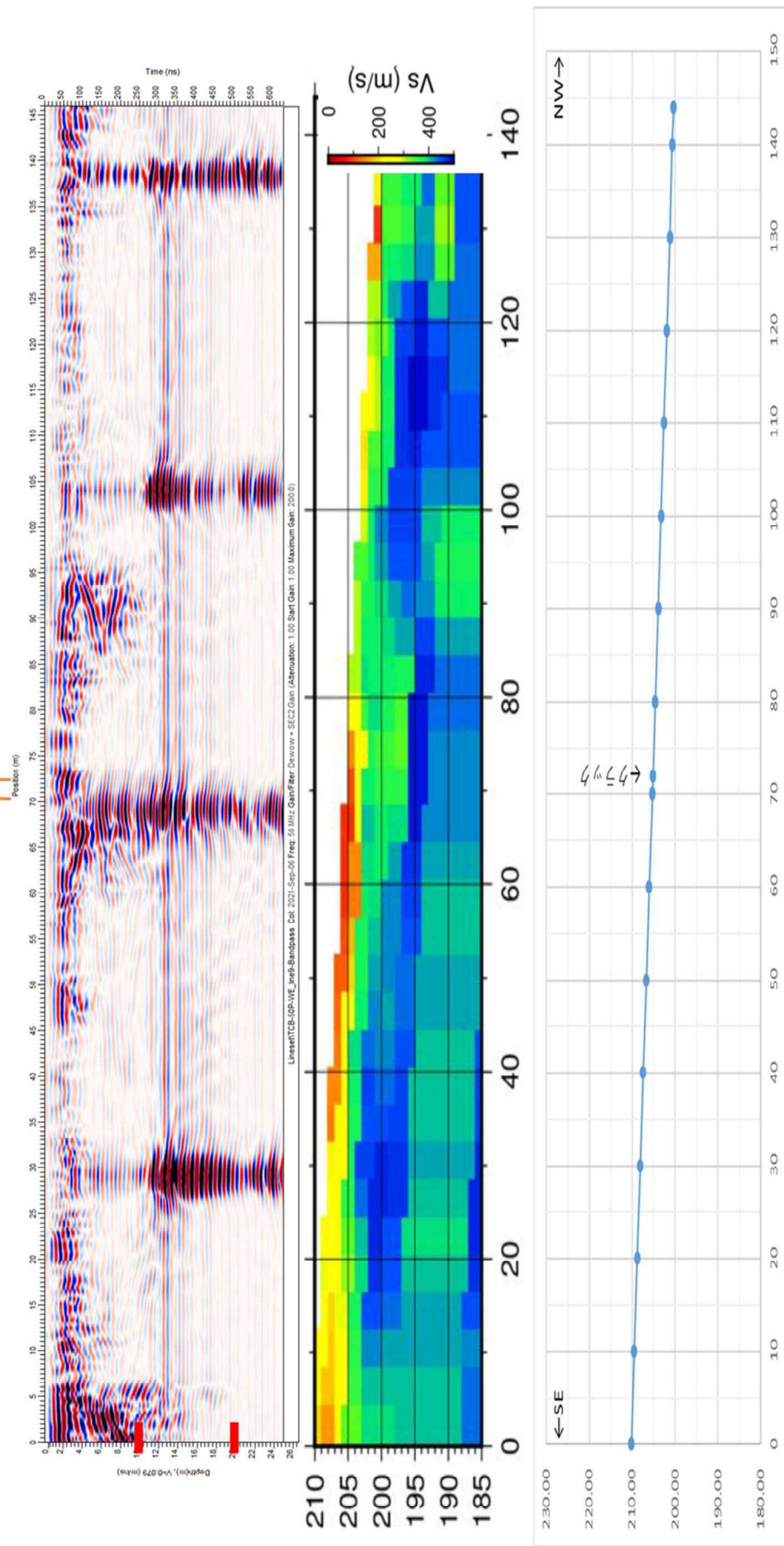


图 2.3.87 土林地区 探査結果 (上 : GPR\_50MHz、中央 : 表面波探査)

土林地区 50MHz 測線

断面は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射（水色破線・水色曲線）の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。深度 4-6m の範囲では、不明瞭ながらも反射面（黄色破線）が確認される。クラック周辺 68-70m の範囲では、反射面の不連続が認められるが、周辺には地上構造物や地下埋設物の反射（水色破線・水色曲線）がみられることから、確実に（赤色破線）重複箇所所で確認される強い多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）であると推定される。

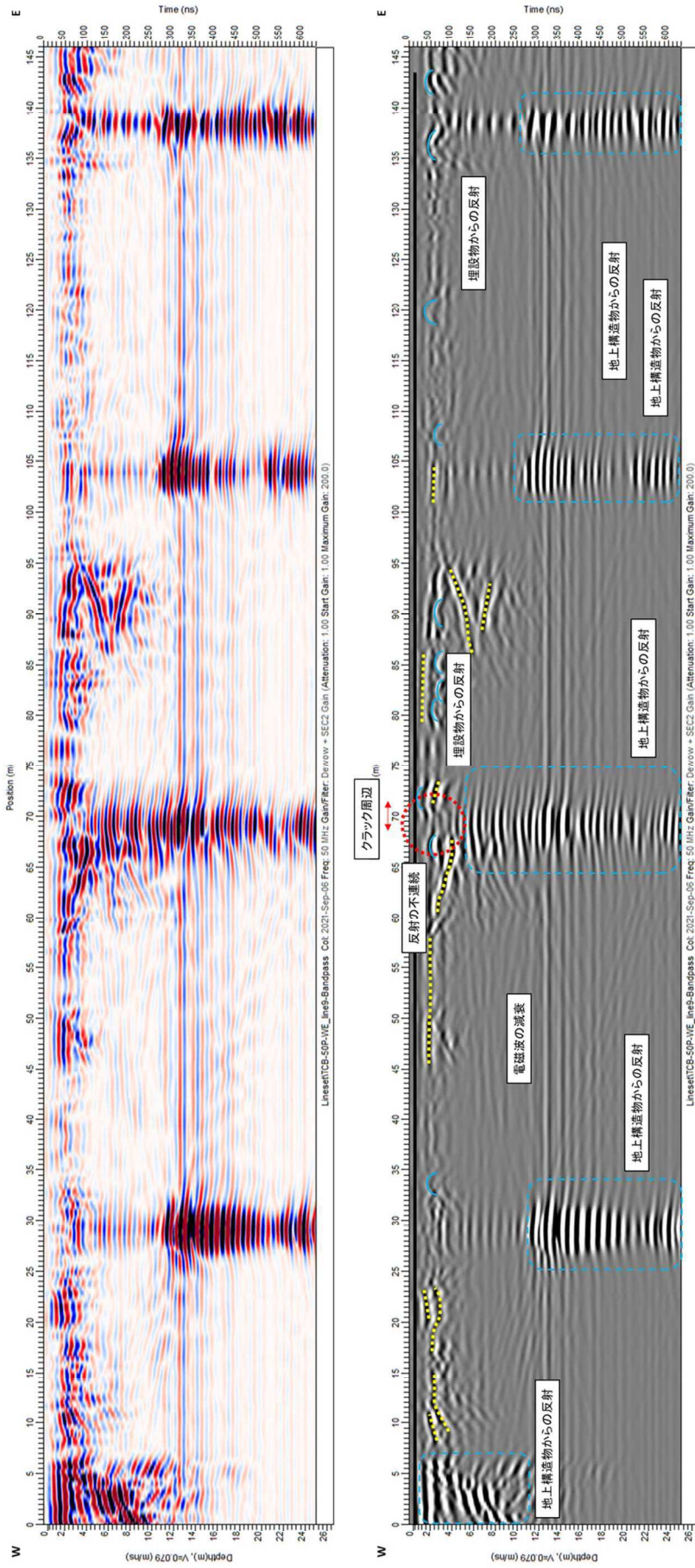


図 2.3.88 土林地区 50MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）

(8) 陣内地区

陣内地区では地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

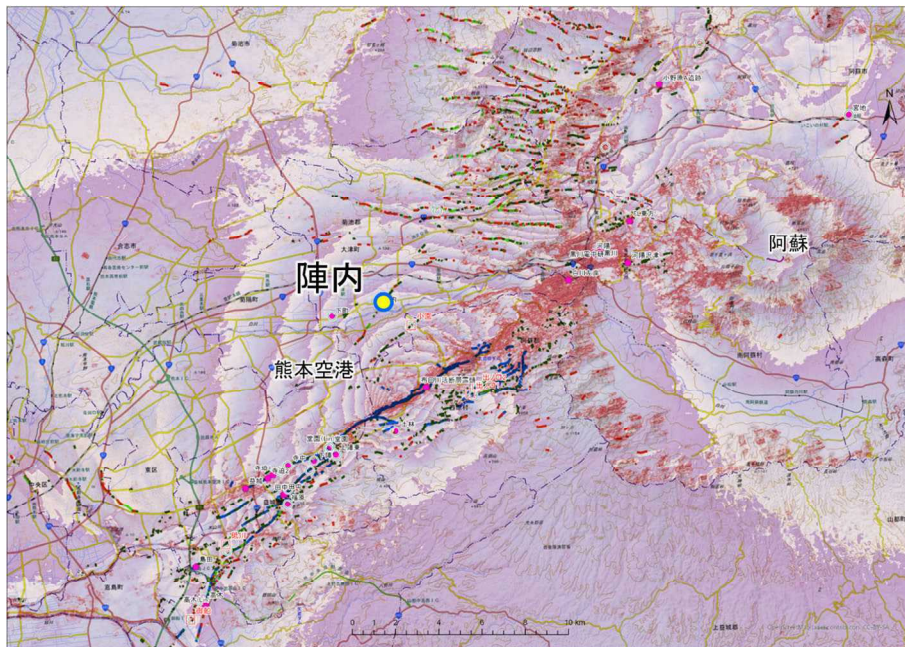


図 2.3.89 調査位置図（陣内）



図 2.3.90 現地状況（陣内：測線状況）

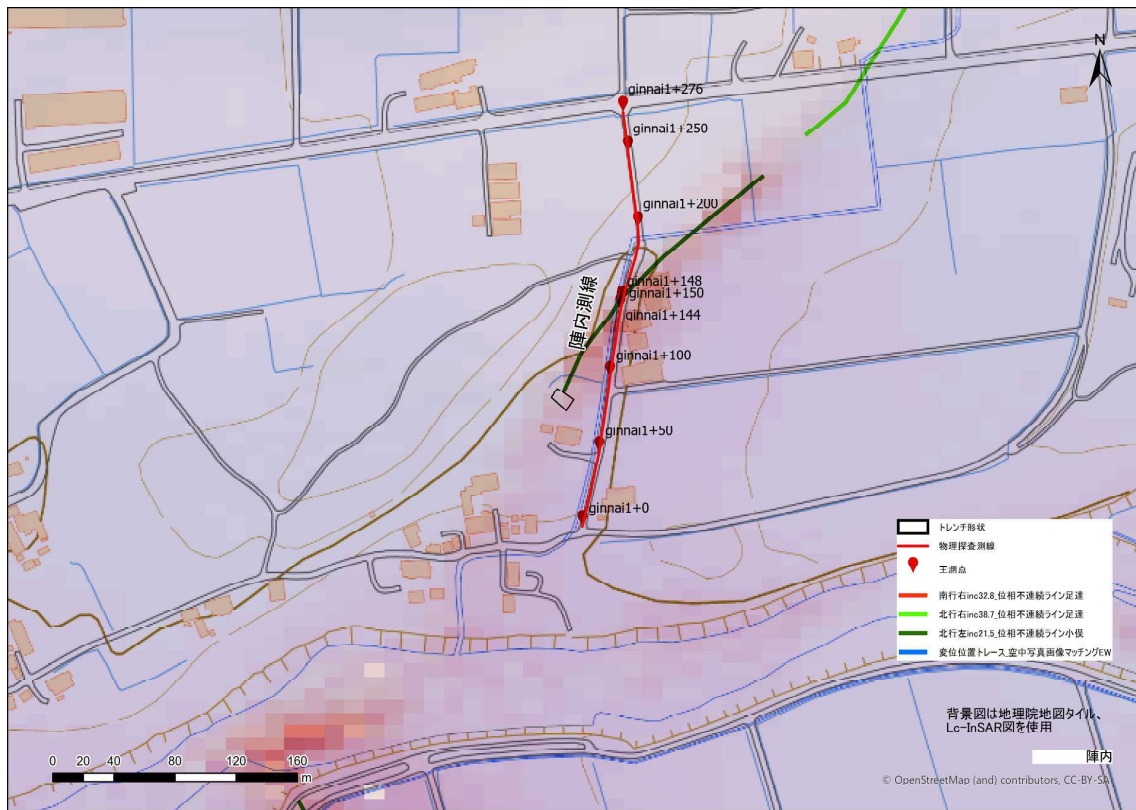


図 2.3.91 探査測線（陣内）

※画像マッチング範囲外

# クラック周辺

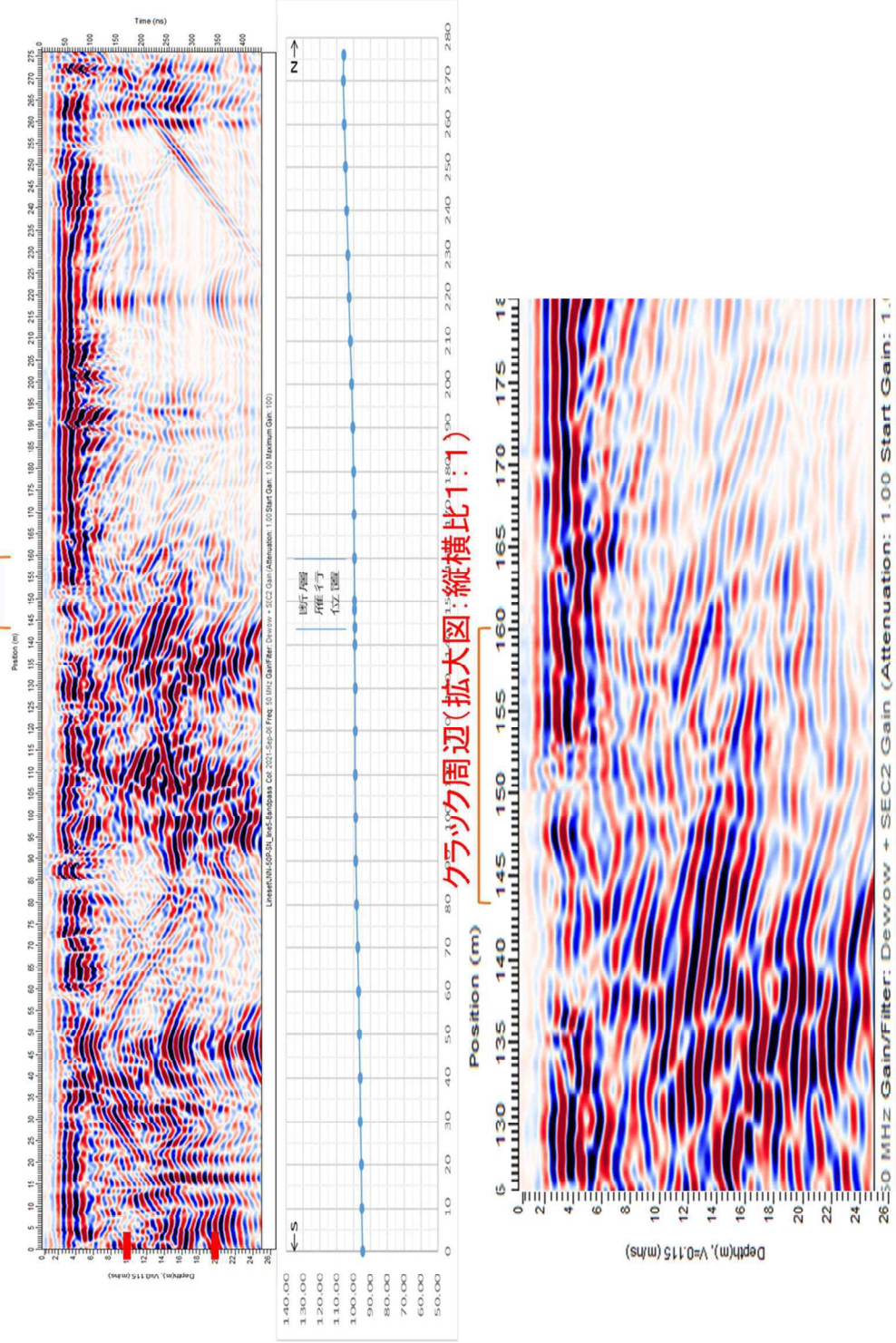


図 2.3.92 陣内地区 探査結果 (50MHz)

### 陣内地区 50MHz 測線

断面は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射（水色破線・水色曲線）の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。測線位置 0-150m の範囲では、とくに地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）が強く、反射面（黄色破線）は断続的にしか確認されない。測線位置 150-275m の範囲では、電磁波の減衰は大きい、深度 5m 付近に連続性の良い反射面の境界（黄色破線）がみられる。クラック位置をみると、測線位置 135-153m の範囲では、反射面の不連続が確認されるが、周辺には地上構造物や地下埋設物の反射（水色破線・水色曲線）がみられることから、確実にではない（赤色破線）。複数箇所を確認される強い多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）であると推定される。

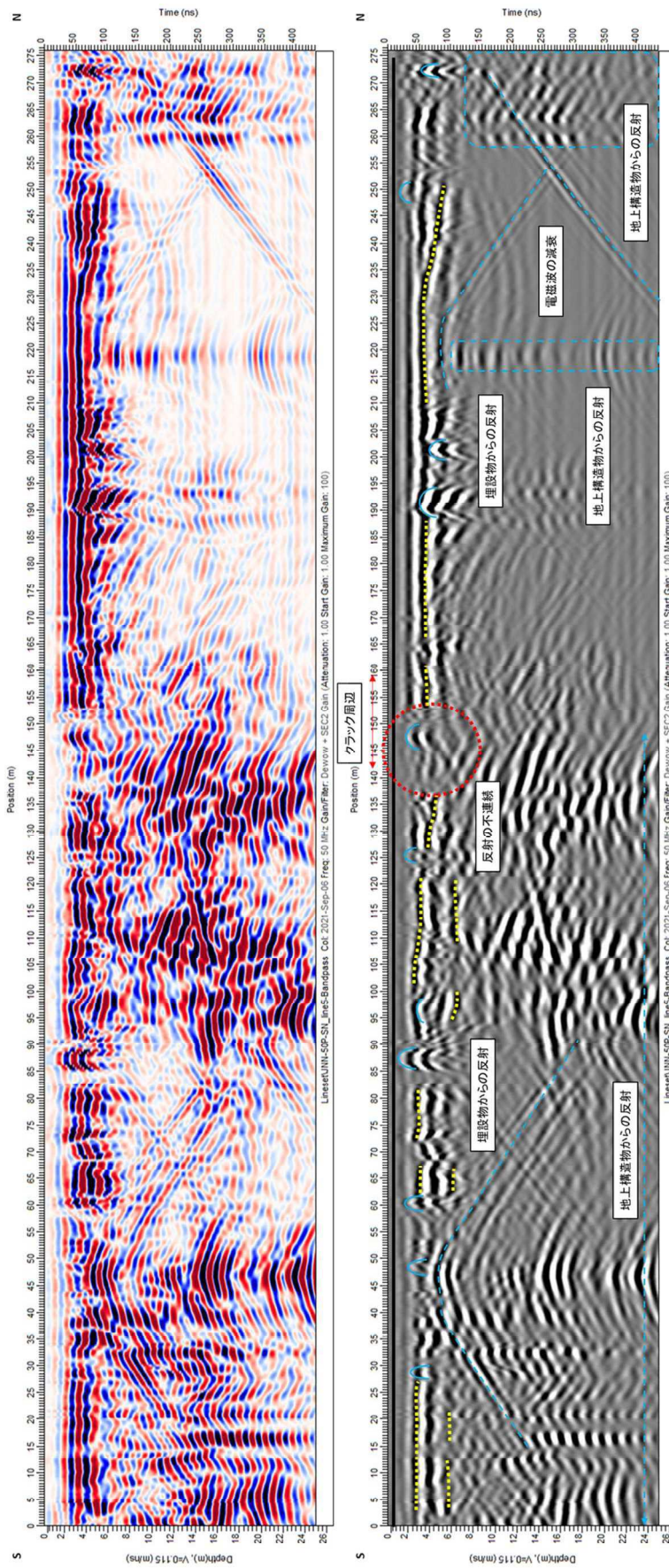


図 2.3.93 陣内地区 50MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）

(9) 下町地区

下町地区では既往トレンチ近傍測線において地中レーダ探査 (25MHz、50MHz) および表面波探査を実施した。調査内容を以下より示す。

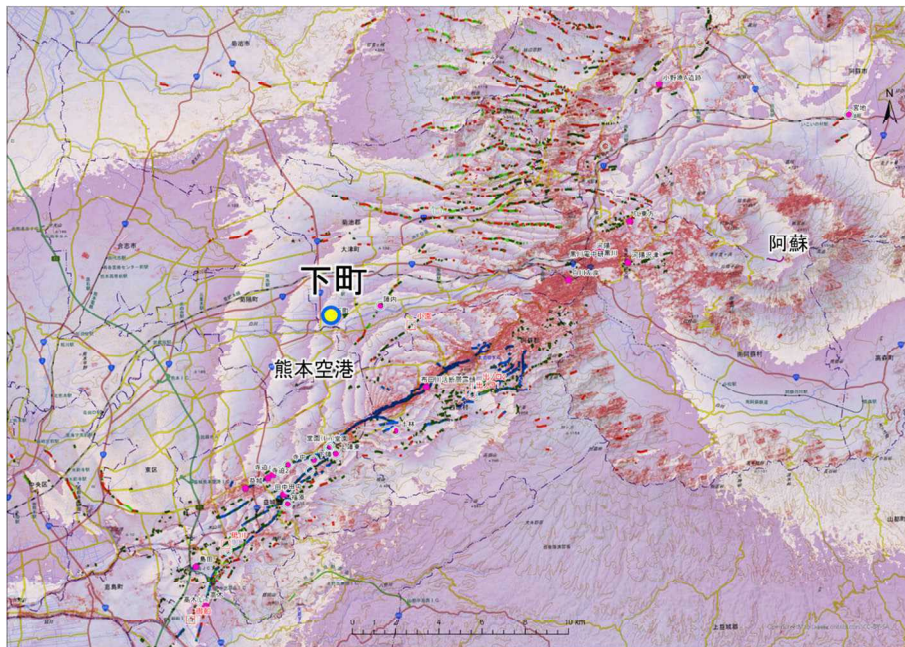


図 2.3.94 調査位置図 (下町)



図 2.3.95 現地状況 (下町：測線状況)

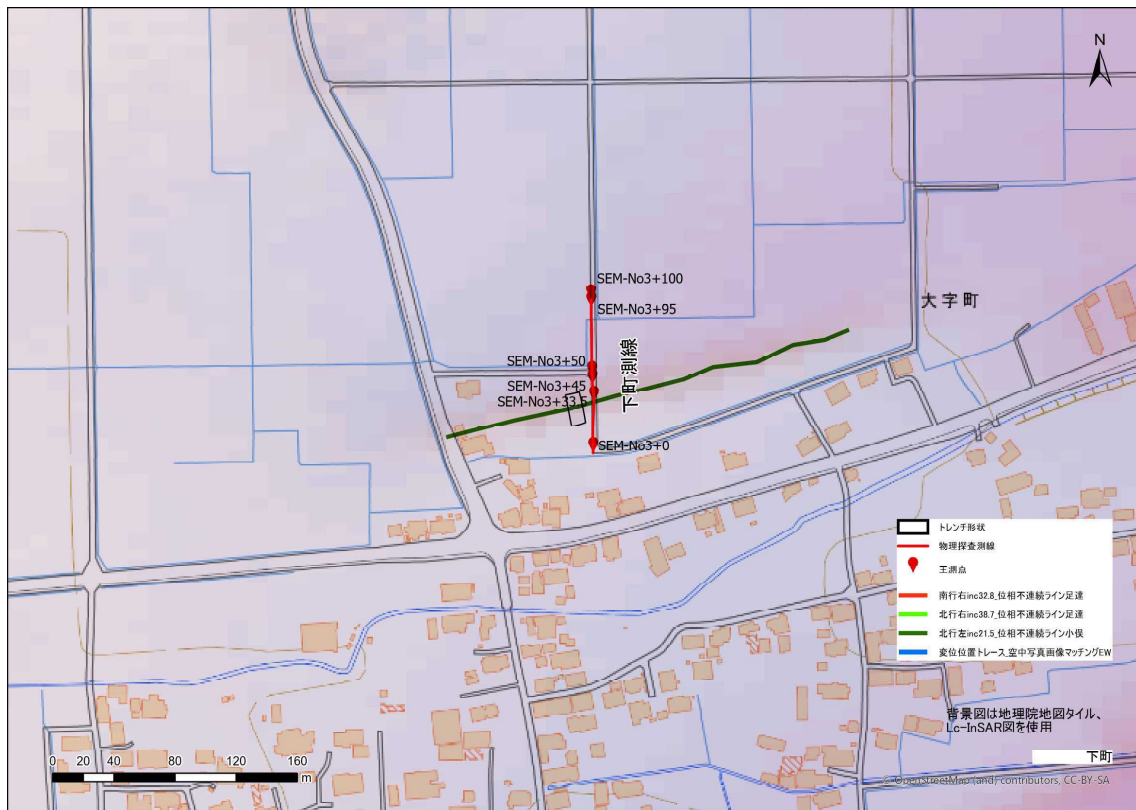


図 2.3.96 探査測線（下町）

※画像マッチング範囲外



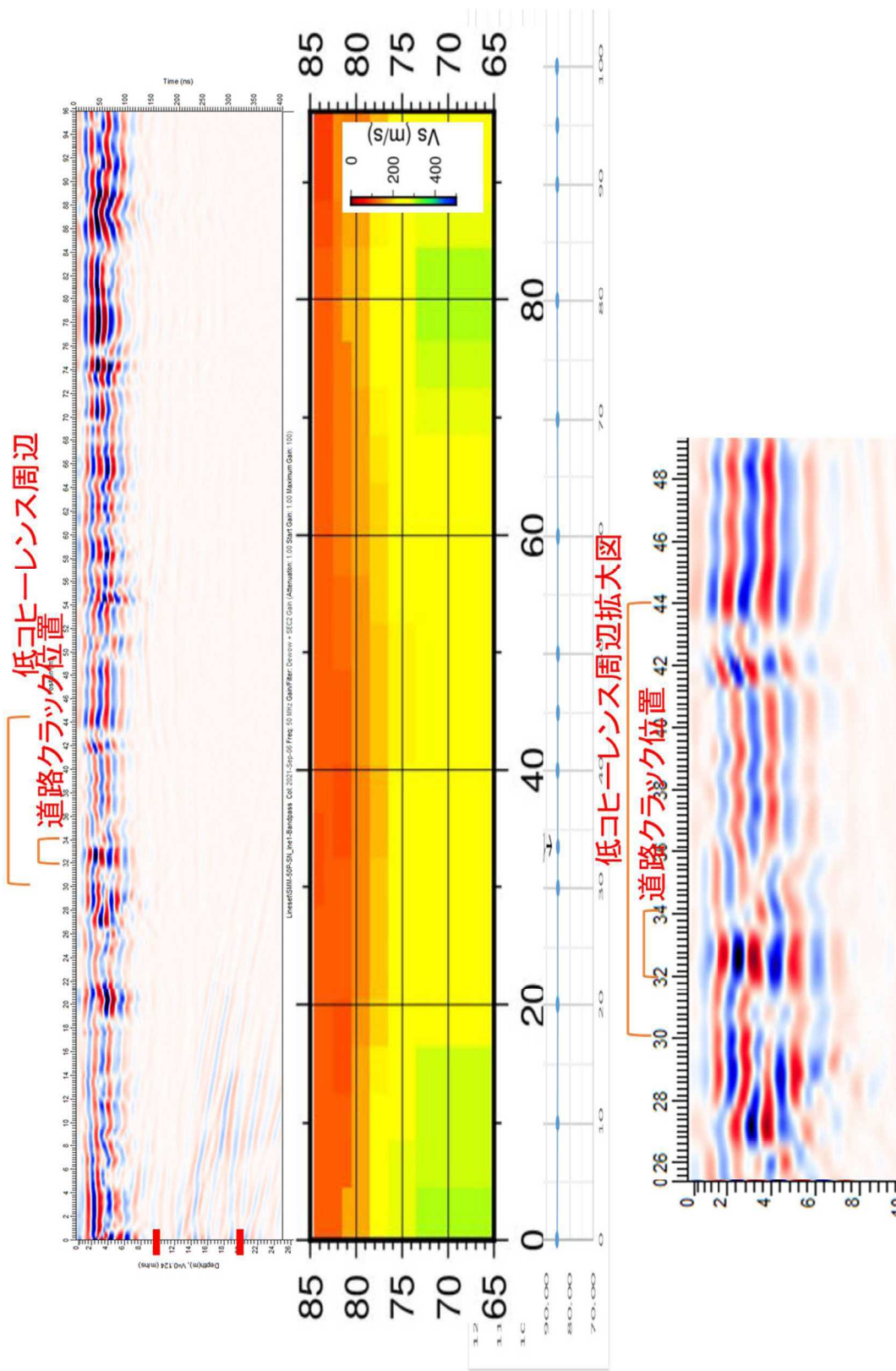


図 2.3.97 下町地区 探査結果 (上・下 : GPR\_50MHz、中央 : 表面波探査)

下町地区 50MHz 測線

断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 5m 付近に連続する反射面（黄色破線）が確認される。道路クラック位置と、測線位置 32-34m の範囲では、明瞭な反射面の不連続など（赤色破線）はみられない（赤色破線）。低コヒーレンス範囲をみると、測線位置 30-44m の範囲では、反射面の不連続が確認される（赤色破線）。これらの不連続は、断層変位によって生じた可能性がある。

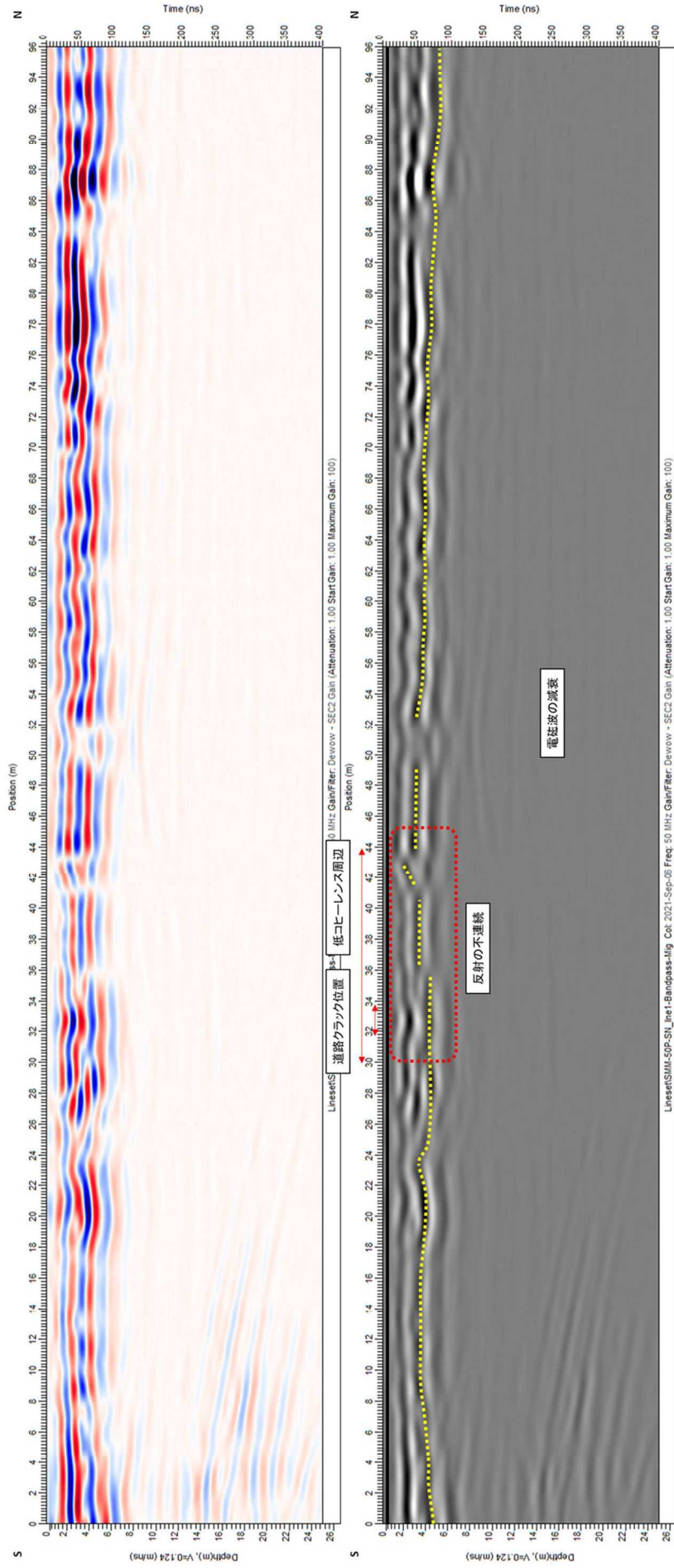


図 2.3.98 下町地区 50MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）

### 下町地区 25MHz 測線

断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 8-12m 付近に連続する反射面（黄色破線）が確認される。道路クランク位置をみると、測線位置 32-34m の範囲では、反射面はほぼ水平に連続し、不連続などはみられない。トレンチ周辺の範囲では、反射面はほぼ水平に連続し、不連続などはみられない。低コヒーレンス範囲をみると、測線位置 30-44m の範囲では、反射面の不連続が確認される（赤色破線）。これらの不連続は、断層変位によって生じた可能性がある。測線位置 0-38m 付近でみられるやや反射強度の強い反応は、地上構造物から反射（水色破線）であると推定される。

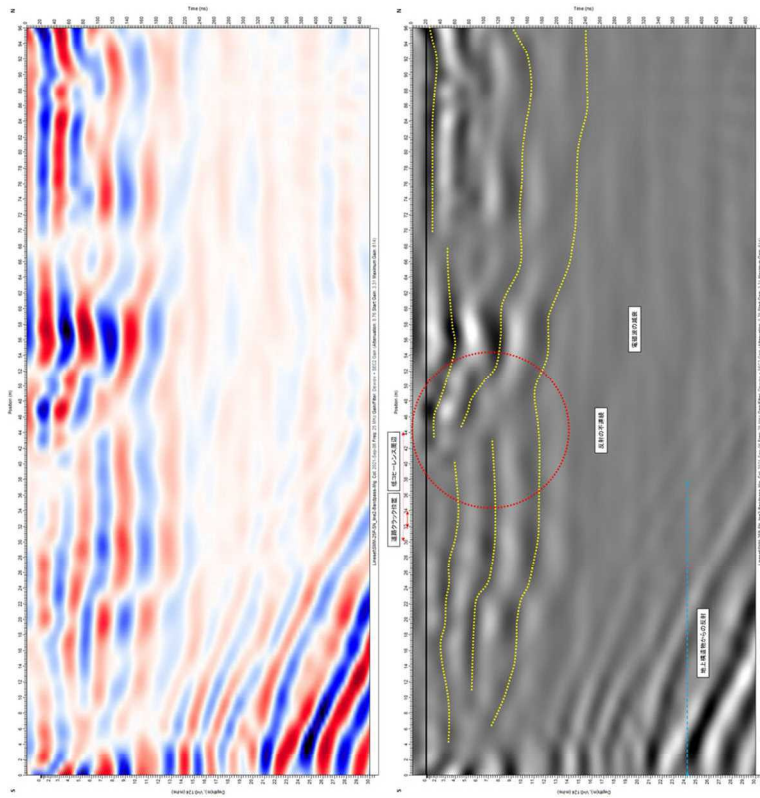


図 2.3.99 土林地区 25MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）

(10) 寺中地区

寺中地区では寺中 2：東側測線において地中レーダ探査（25MHz、50MHz）および表面波探査を、寺中 1：西側測線において地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

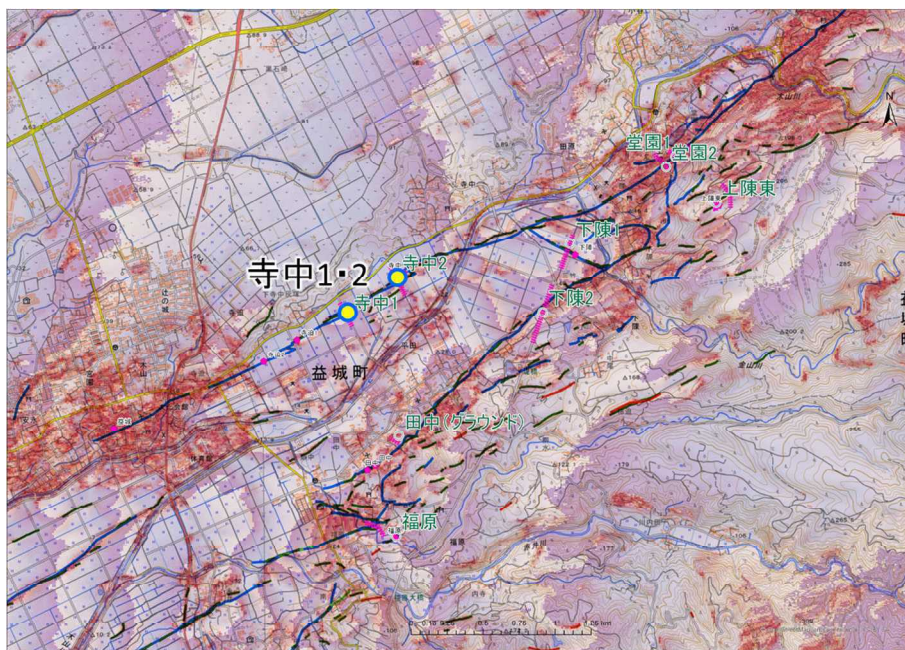


図 2.3.100 調査位置図（寺中）



図 2.3.101 現地状況（寺中：測線状況）

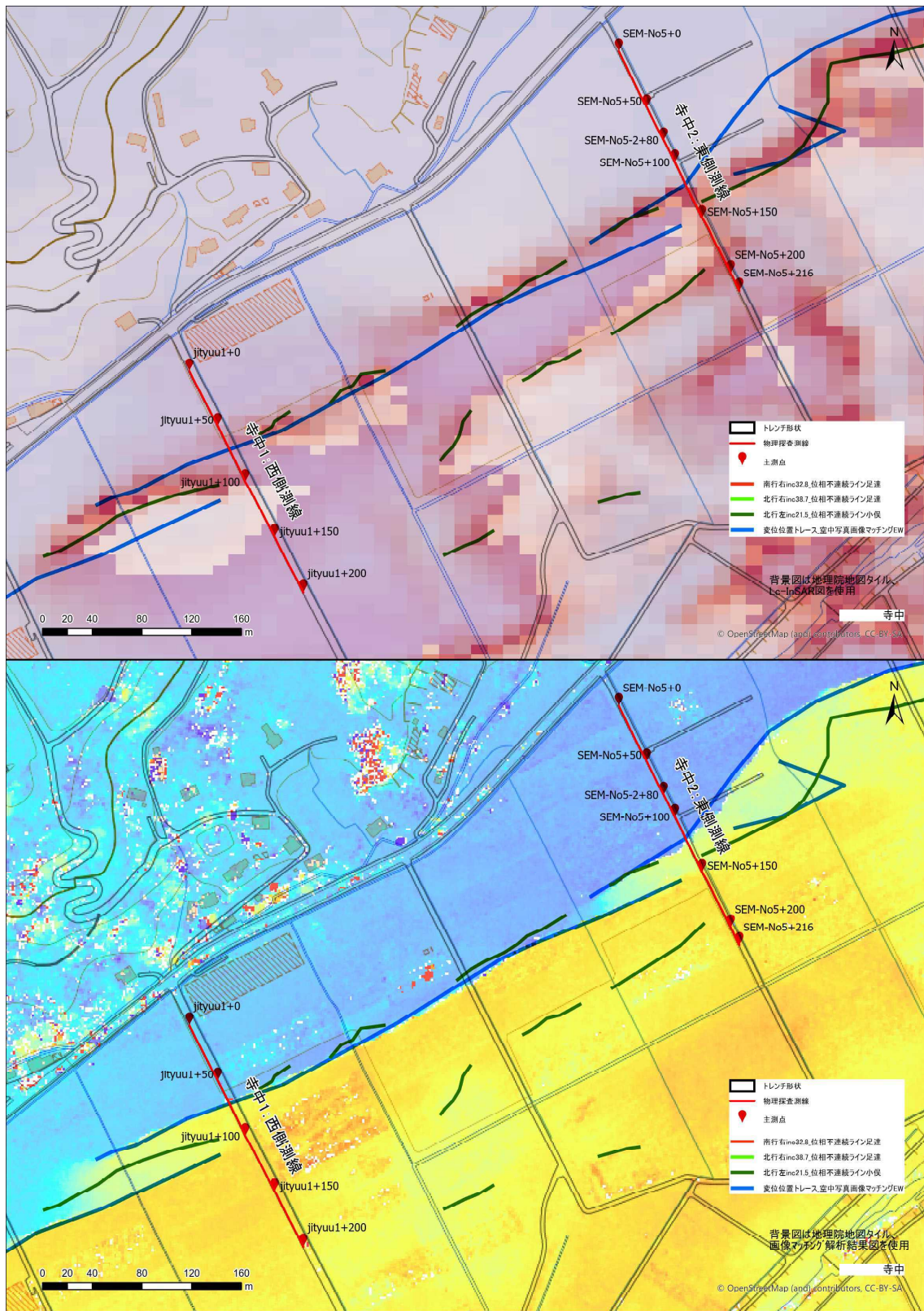


図 2.3.102 探査測線（寺中）

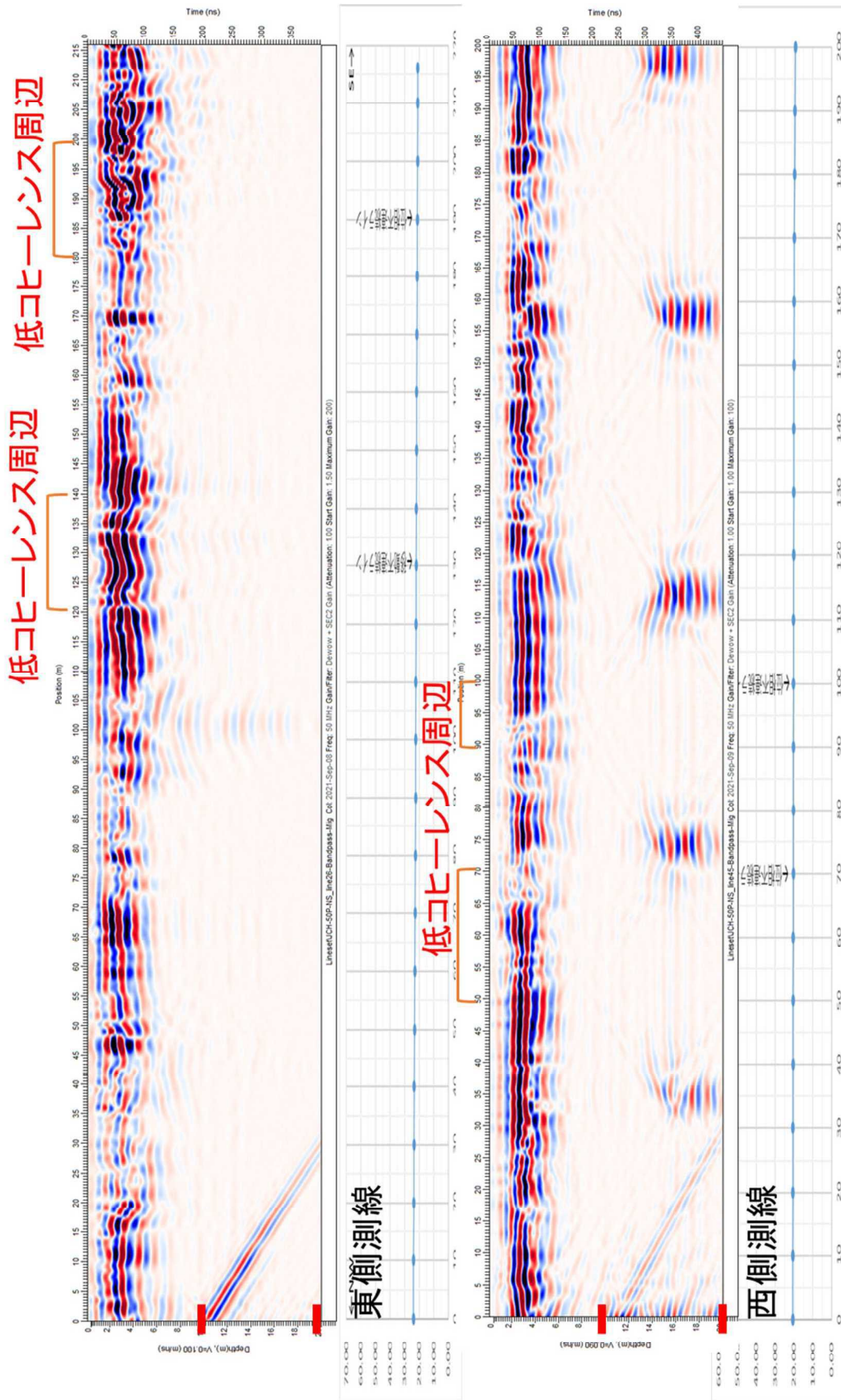
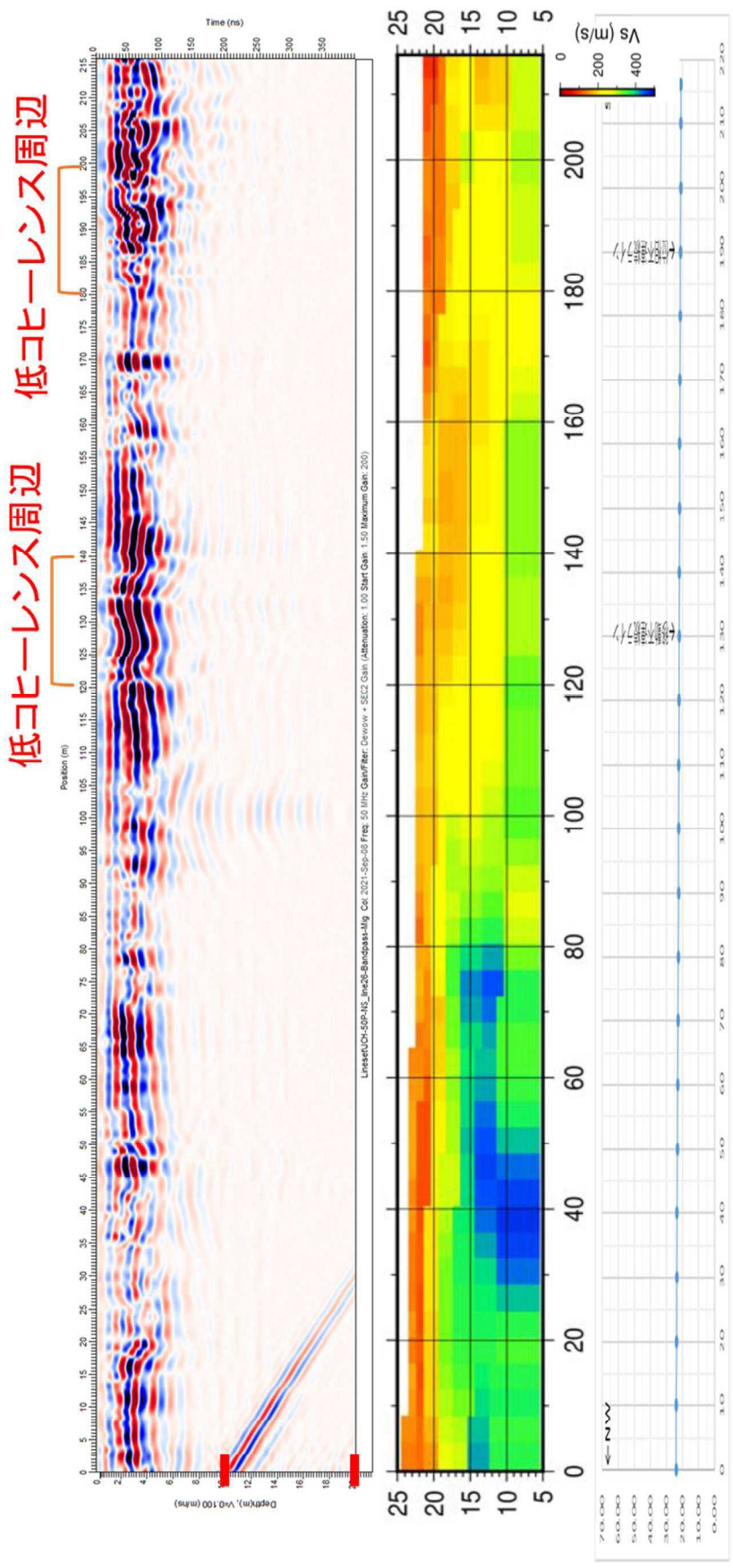


図 2.3.103 寺中地区 (東西測線比較) 探査結果 (GPR\_50MHz)



東側測線

図 2.3.104 寺中地区 (東側測線) 探査結果 (上: GPR\_50MHz、中央: 表面波探査)

寺中地区 50MHz 測線 (東側測線)

断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 6m 付近に連続する反射面 (黄色破線) が確認される。低コヒーレンス範囲をみると、測線位置 120-140m の範囲では、反射面の不連続が確認される (赤色破線)。測線位置 180-200m の範囲では、反射面の不連続や乱れが確認される (赤色破線)。

これらの不連続は、断層変位によって生じた可能性がある。測線位置 0-30m 付近にみられる直線状の反射形状や深度 4m 以下の双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射 (水色破線・水色曲線) であると推定される。

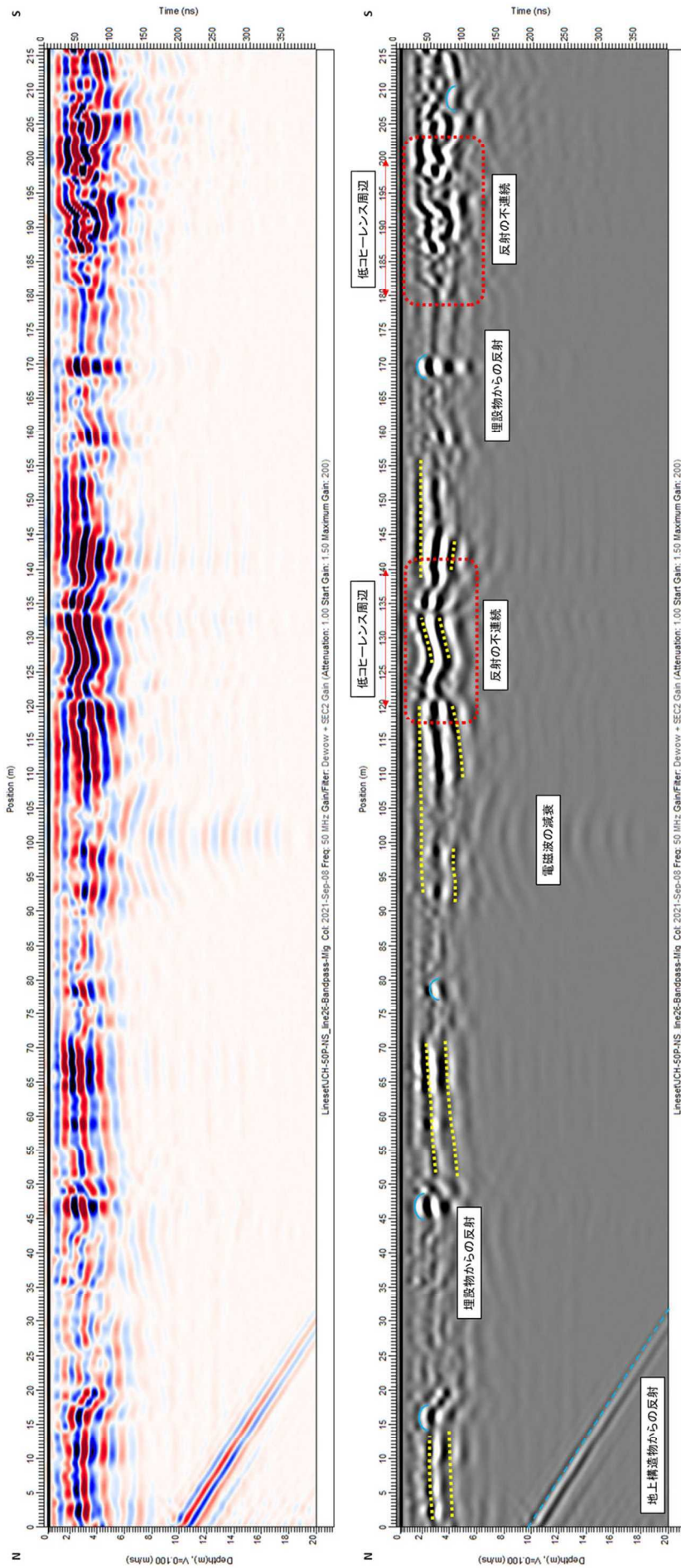


図 2.3.105 寺中地区 (東側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)



寺中地区 25MHz 測線 (東側測線)

断面は、電磁波の減衰が大きいため、良好な記録が得られていない。左断面の測線位置 100-128m・右断面の 0-20m・60-88m の範囲以外は、反射面 (黄色破線) が読み取れない。低コヒーレンス範囲をみると、左断面の測線位置 0-12m の範囲では、反射面の不連続があるようにみえるが、記録の接合部であり、确实ではない (赤色破線)。右断面の測線位置 52-72m の範囲では、反射面の不連続や反射強度の違いが確認される (赤色破線)。これらの不連続は、断層変位によって生じた可能性がある。測線位置 0-63m 付近にみられる直線状の反射形状は、地上構造物からの反射 (水色破線) であると推定される。

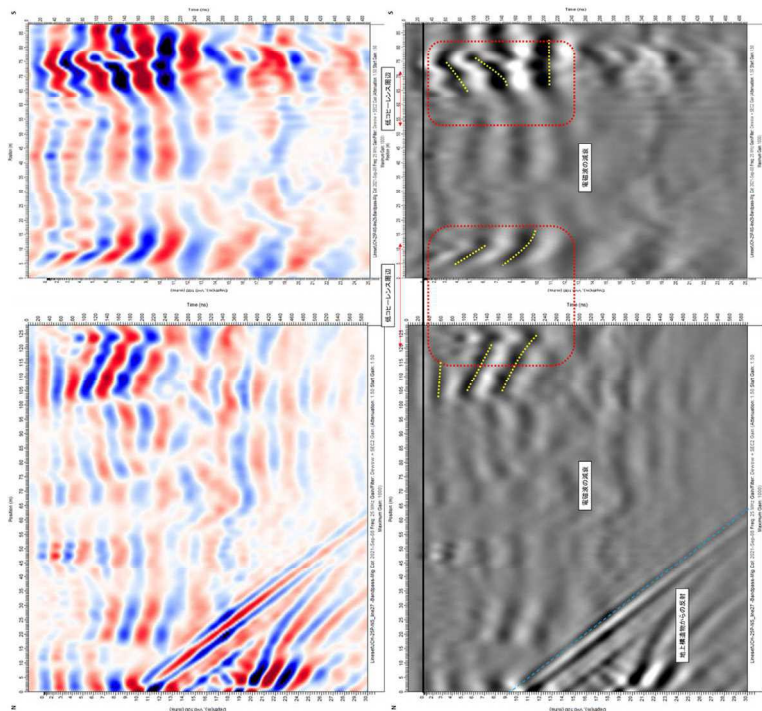


図 2.3.106 寺中地区 (東側測線) 25MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

寺中地区 50MHz 測線 (西側測線)

断面は、電磁波の減衰が大きい、深度 5m 付近に連続する反射面 (黄色破線) が確認される。低コヒーレンス範囲をみると、測線位置 65-73m の範囲では、反射面の不連続や乱れがみられる (赤色破線)。測線位置 82-95m の範囲では、反射面の不連続や乱れがみられる (赤色破線)。これらの不連続は、断層変位によって生じた可能性がある。測線位置 0-30m 付近にみられる直線状の反射形状や深度 13m 以深の多重反射は、地上構造物からの反射 (水色破線) であると推定される。

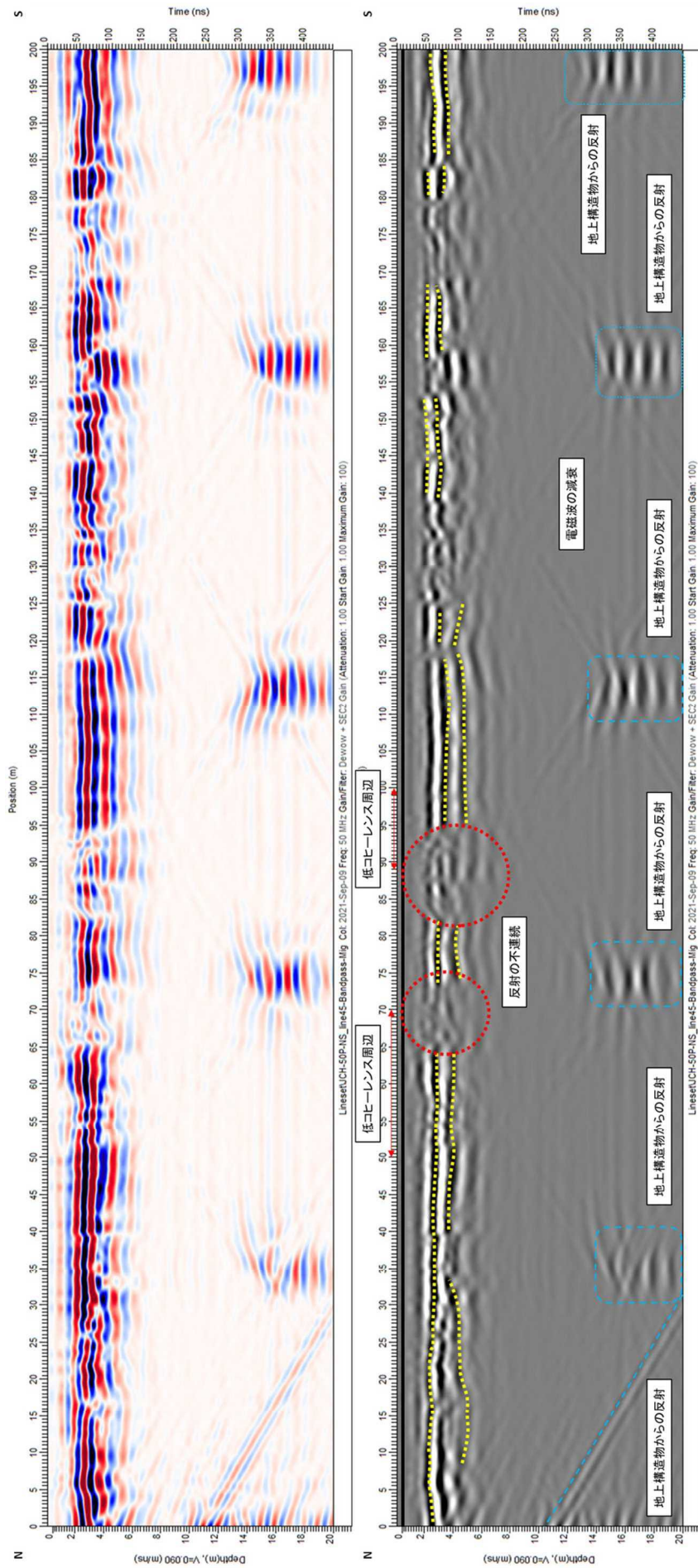


図 2.3.107 寺中地区 (西側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

(11) 下陳地区

下陳地区では低地側測線および丘陵側測線において地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

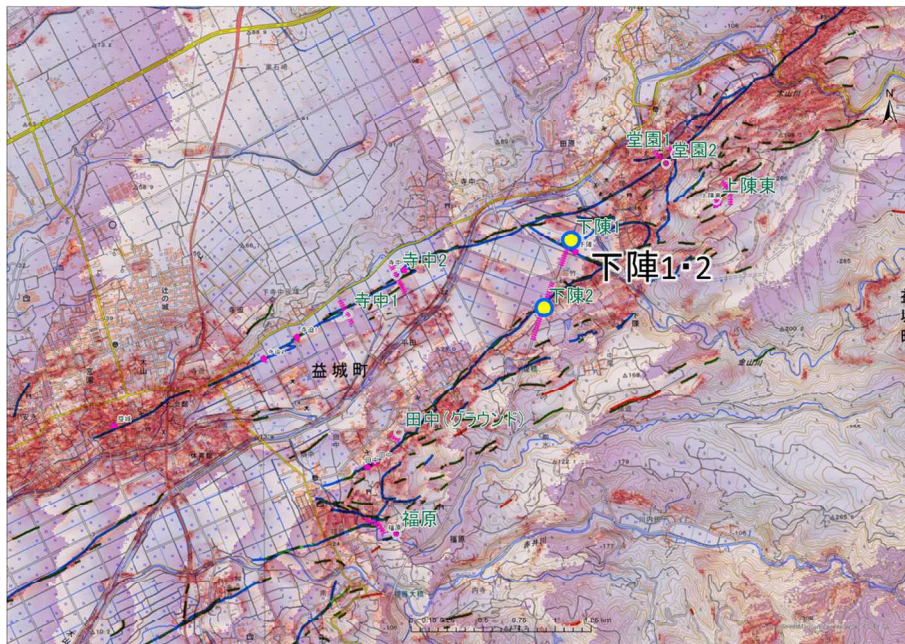


図 2.3.108 調査位置図（下陳）



農道沿い北東向き視点

図 2.3.109 現地状況（下陳）

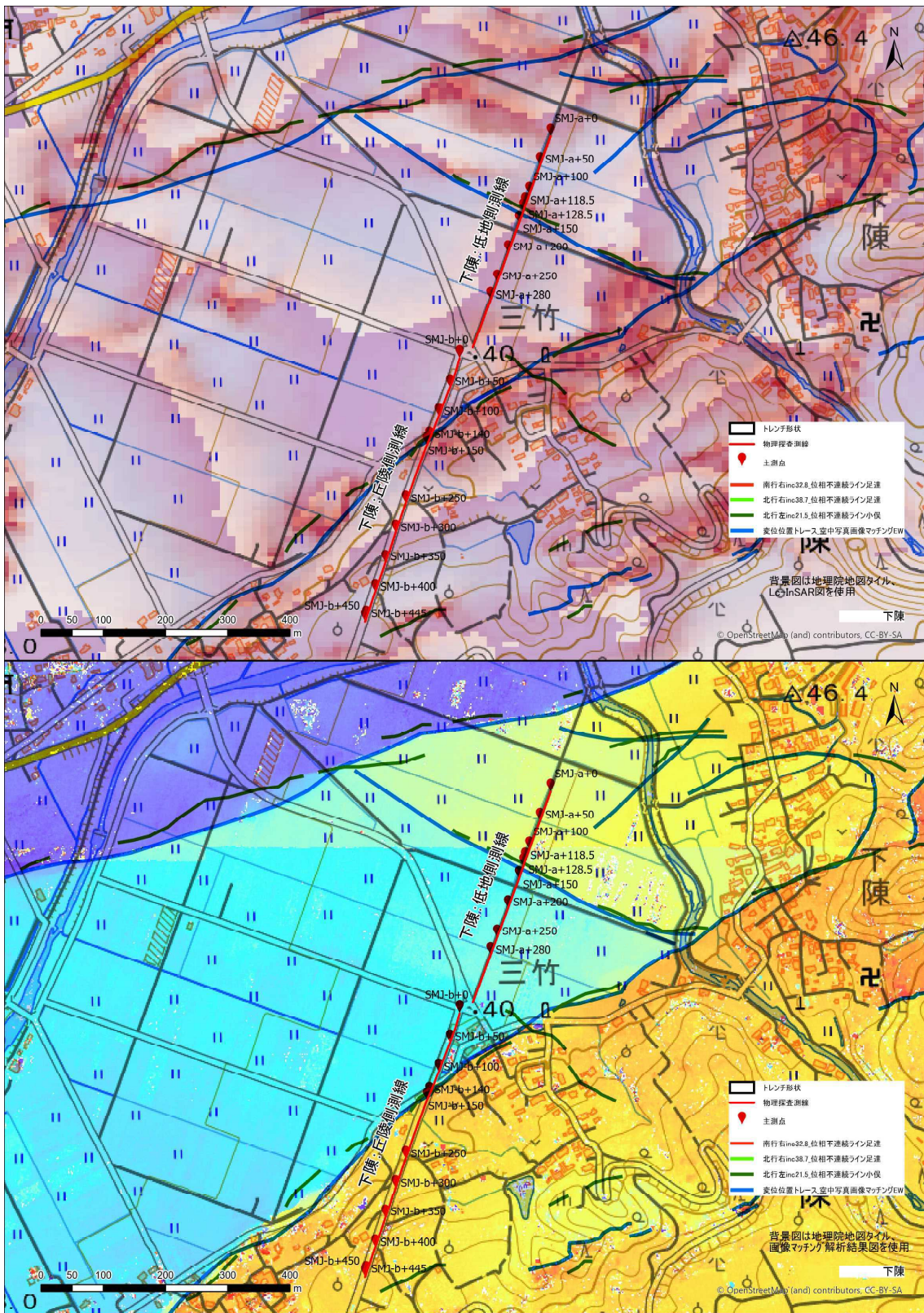


図 2.3.110 探査測線（下陳）

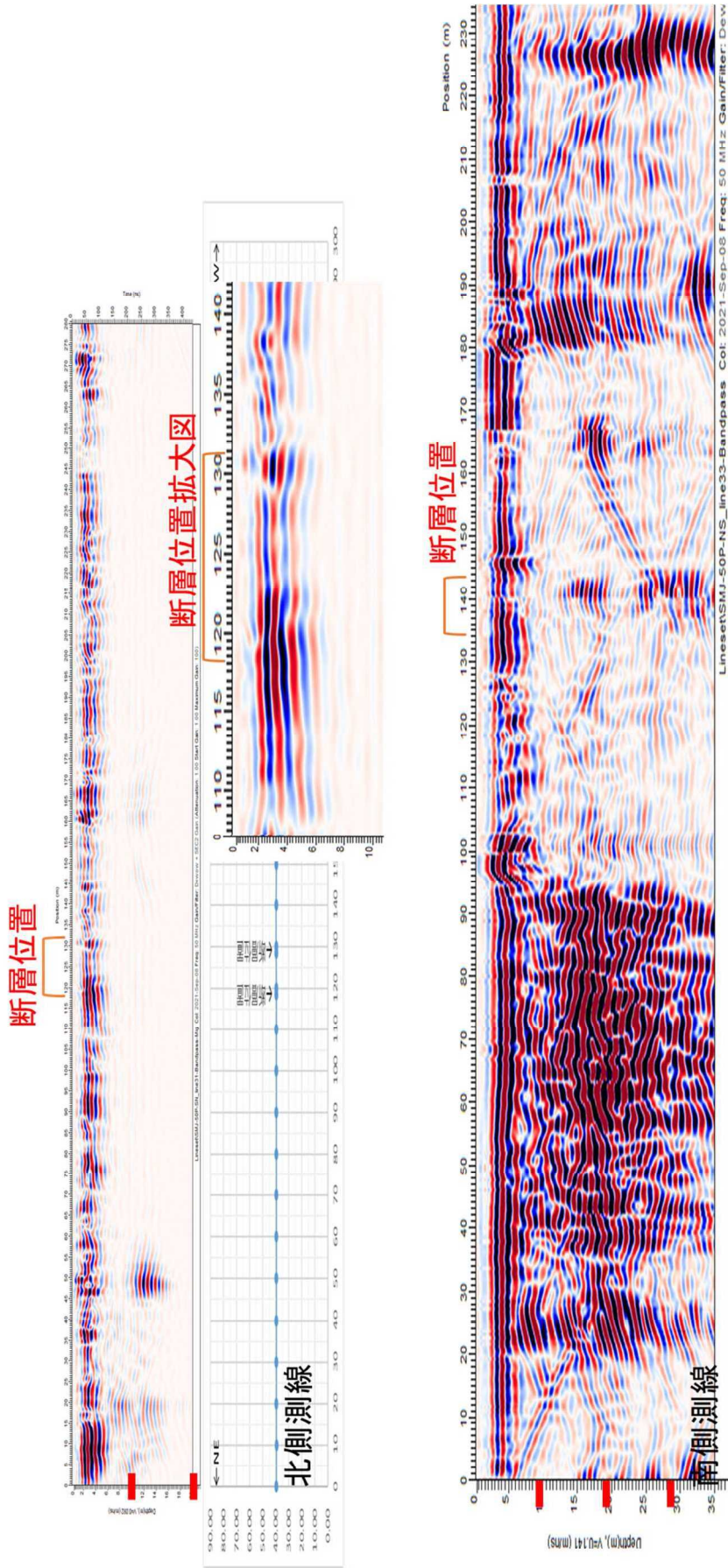


図 2.3.111 下陳地区 (北側測線：低地側 と 南側測線：丘陵側を分割して計測) 調査結果 (GPR\_50MHz)

下陣地区 50MHz 測線（北側測線）

断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 6m 付近に連続する反射面（黄色破線）が確認される。断層位置 107-135m の範囲では、反射面の不連続や乱れがみられるが、周辺には地下埋設物の反射がみられる（赤色破線）。複数箇所を確認される多重反射や深度 4m 以浅にみられる双曲線状の反射は、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）であると推定される。

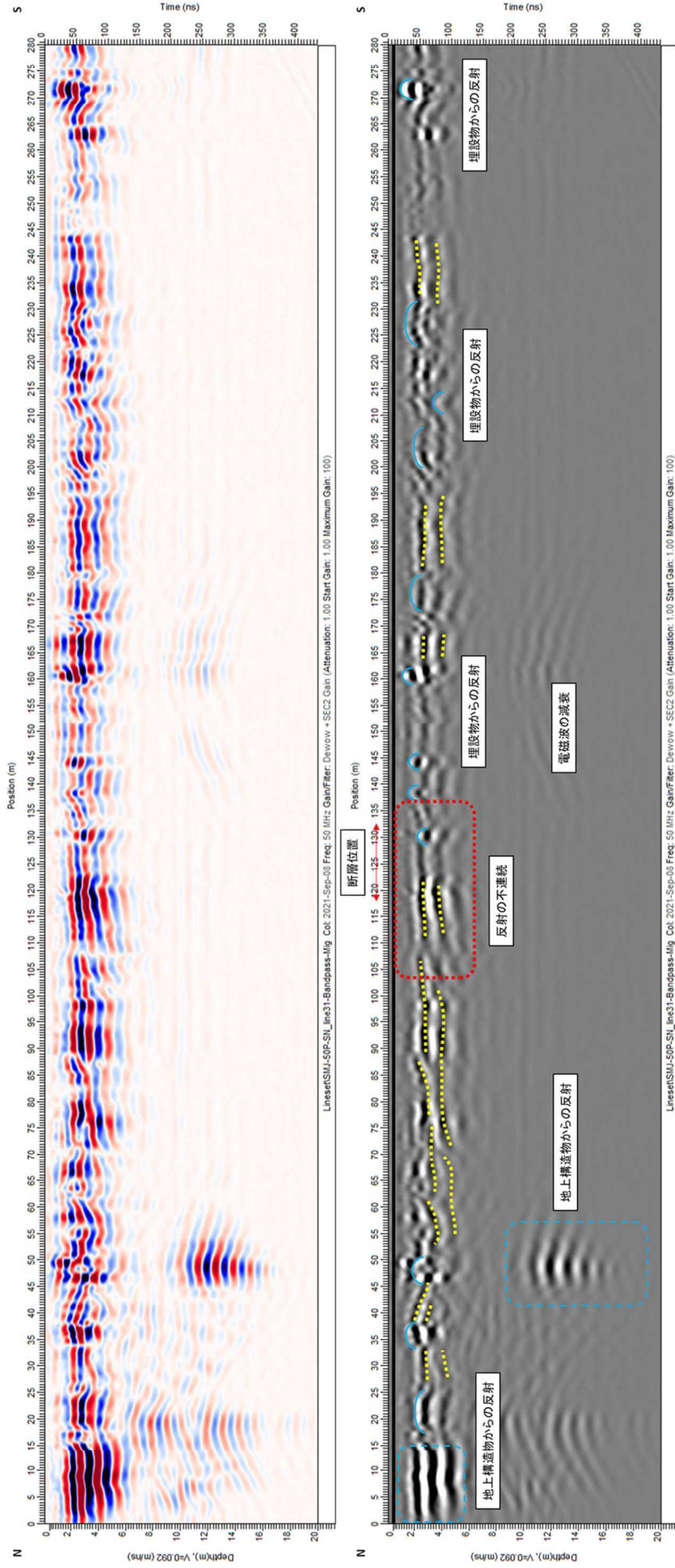


図 2.3.112 下陣地区（北側測線） 50MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）

下陣地区 50MHz 測線 (南側測線)

断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 5m 付近に連続する反射面 (黄色破線) が確認される。断面は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射 (水色破線・水色曲線) の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。断層位置をみると、測線位置 137-140m の範囲では、反射面の不連続が確認されるが、周辺には地下埋設物の反射 (水色曲線) がみられない (赤色破線)。

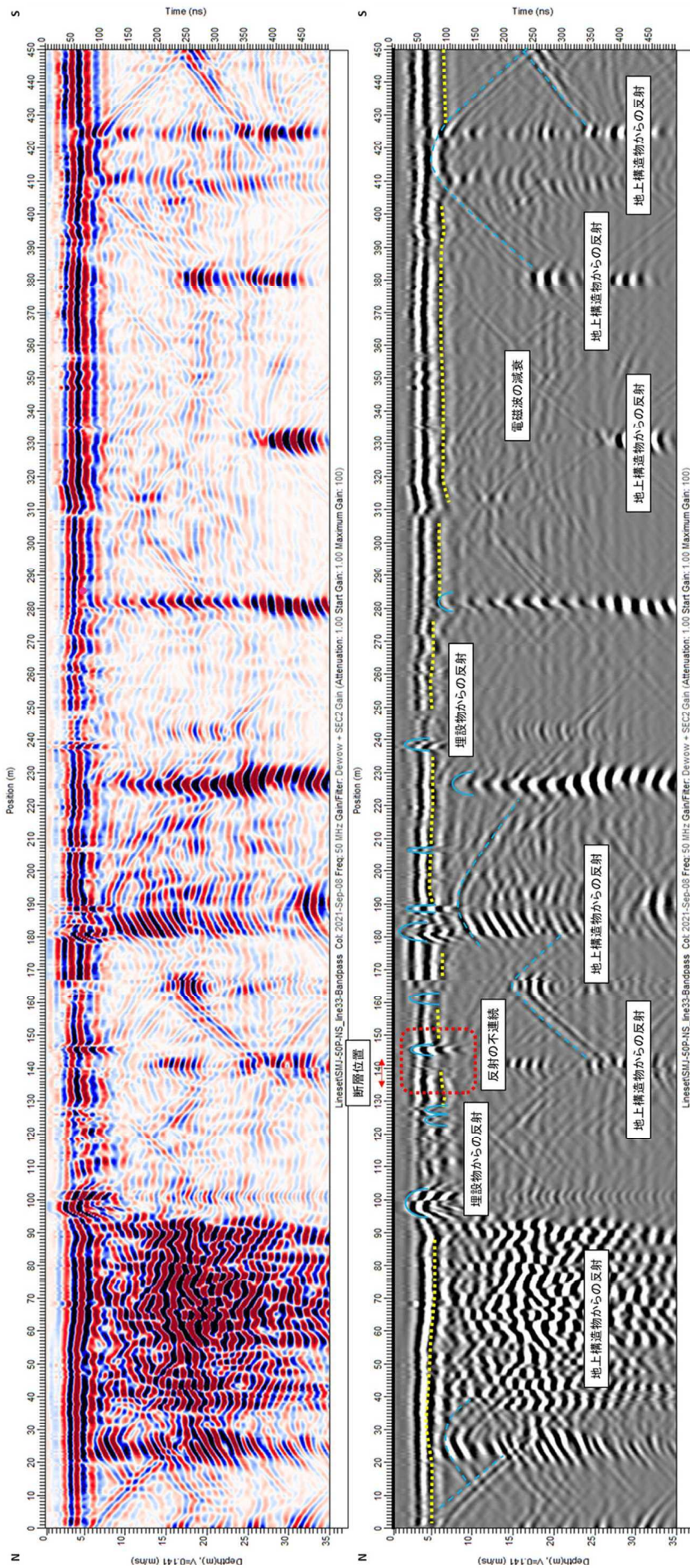


図 2.3.113 下陣地区 (南側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

(12) 堂園地区

堂園地区では東側測線および西側測線において地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

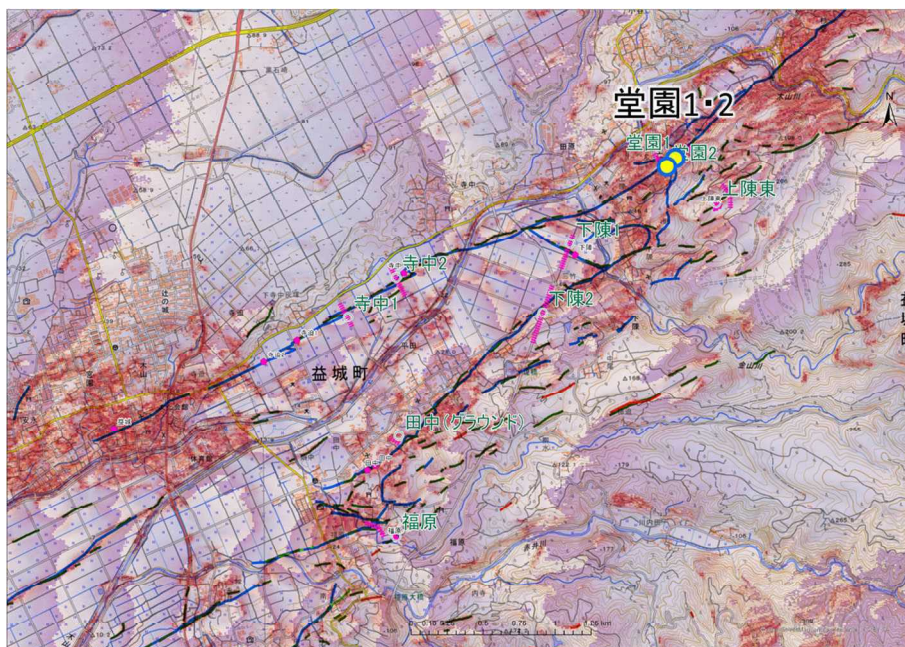


図 2.3.114 調査位置図（堂園）



図 2.3.115 現地状況（堂園：西側測線、北側から望む）



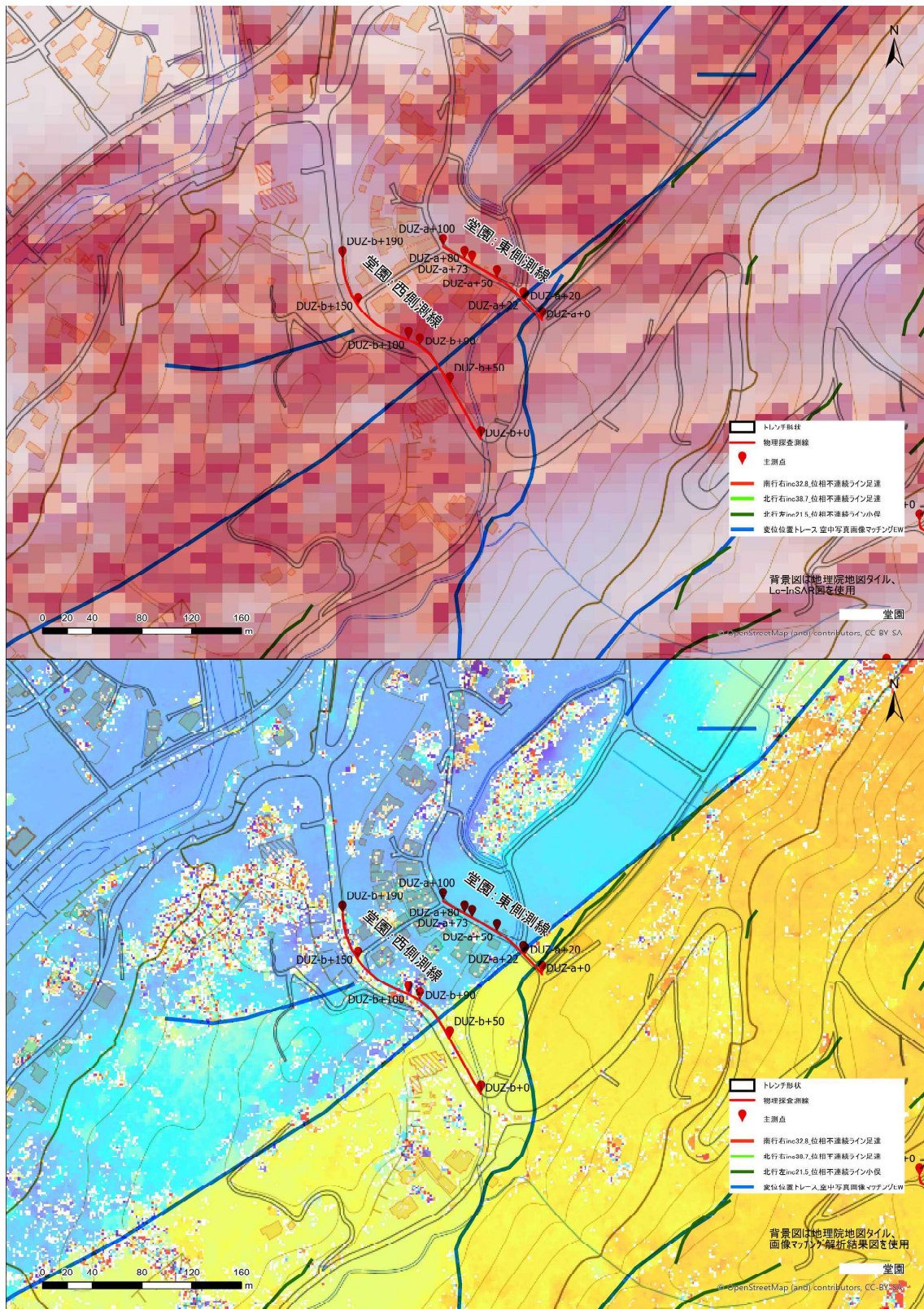


図 2.3.116 探査測線（堂園）

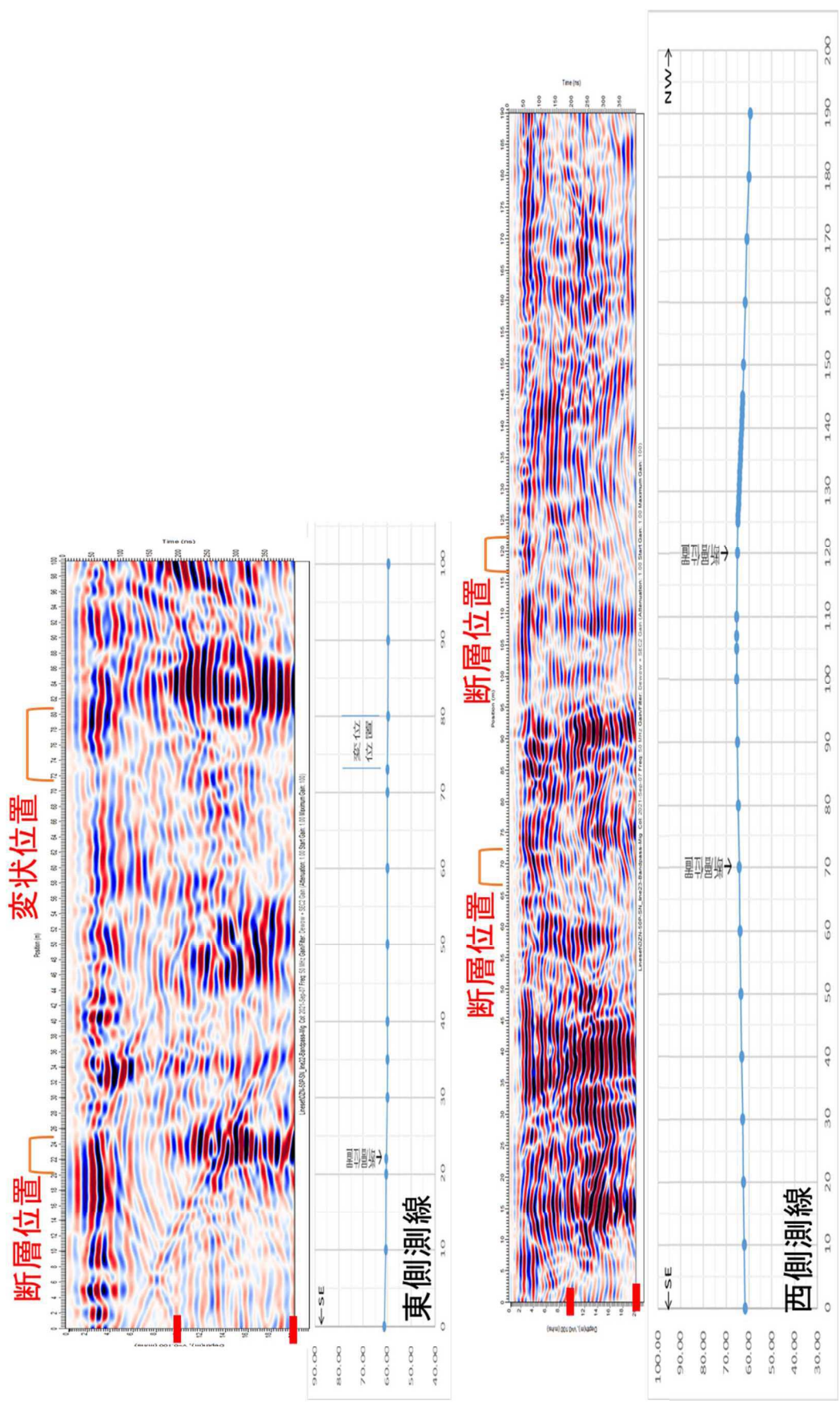


図 2.3.117 堂園地区 (東西測線比較) 探査結果 (GPR\_50MHz)

堂園地区 50MHz 測線 (東側測線)

断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 4m 付近に連続する反射面 (黄色破線) が確認される。断面は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射 (水色破線・水色曲線) の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。断層位置をみると、測線位置 20-25m の範囲では、反射面の不連続が確認される (赤色破線)。測線位置 71-81m の範囲では、反射面の不連続が確認される (赤色破線)。これらの不連続は、断層変位を示している可能性がある。複数箇所を確認される反射強度の多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射 (水色破線・水色曲線) であると推定される。

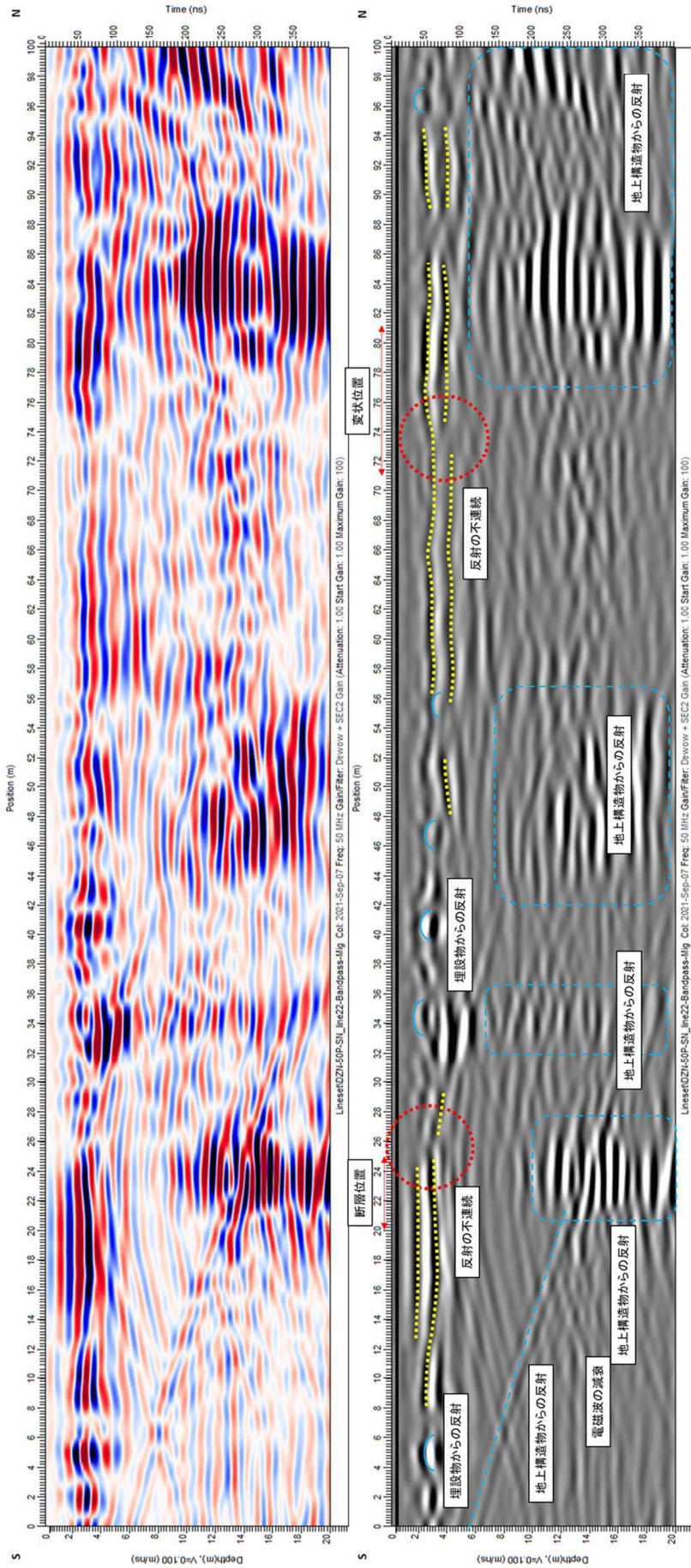


図 2.3.118 堂園地区 (東側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

堂園地区 50MHz 測線 (西側測線)

断面は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射 (水色破線・水色曲線) の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。断面は、電磁波の減衰が大きいが、深度 4m 付近に連続する反射面 (黄色破線) が確認される。断面位置をみると、測線位置 60-73m の範囲では、反射面の不連続が認められるが、周辺には地上構造物や地下埋設物の反射 (水色破線・水色曲線) がみられることから、確実ではない (赤色破線)。測線位置 116-121m の範囲では、反射面の不連続が確認される (赤色破線)。この不連続は、断面変位によって生じた可能性がある。断面全体にわたって確認される反射強度の多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射 (水色破線・水色曲線) であると推定される。

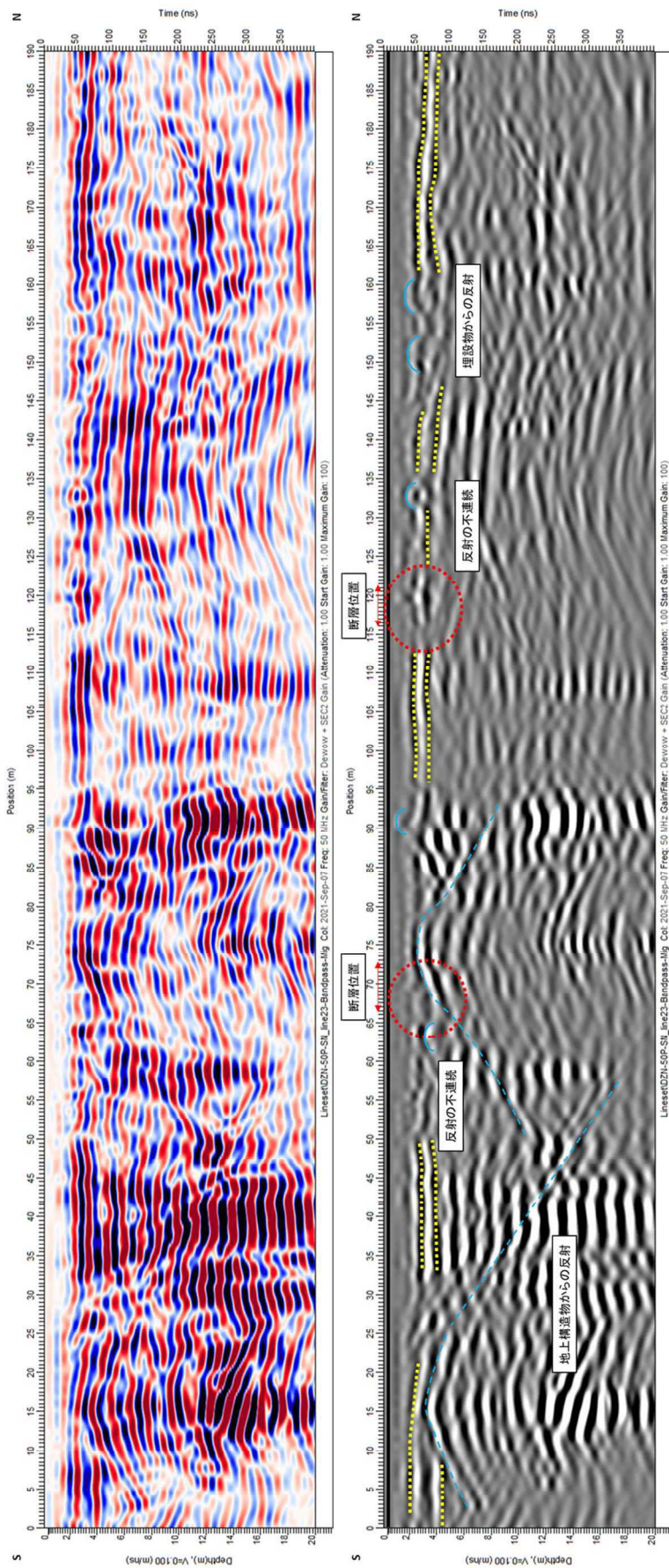


図 2.3.119 堂園地区 (西側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラールー断面、下: 解釈断面グレースケール)

(13) 宮地地区

宮地地区では地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

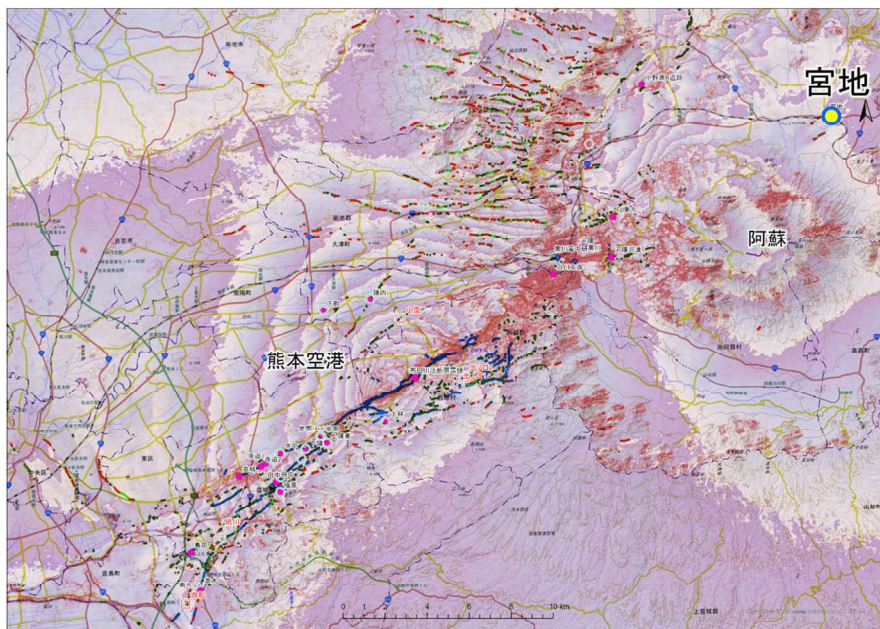


図 2.3.120 調査位置図（宮地）



県道から西に延びる車道沿い、西向き視点(右方にトレンチ)

図 2.3.121 現地状況（宮地）

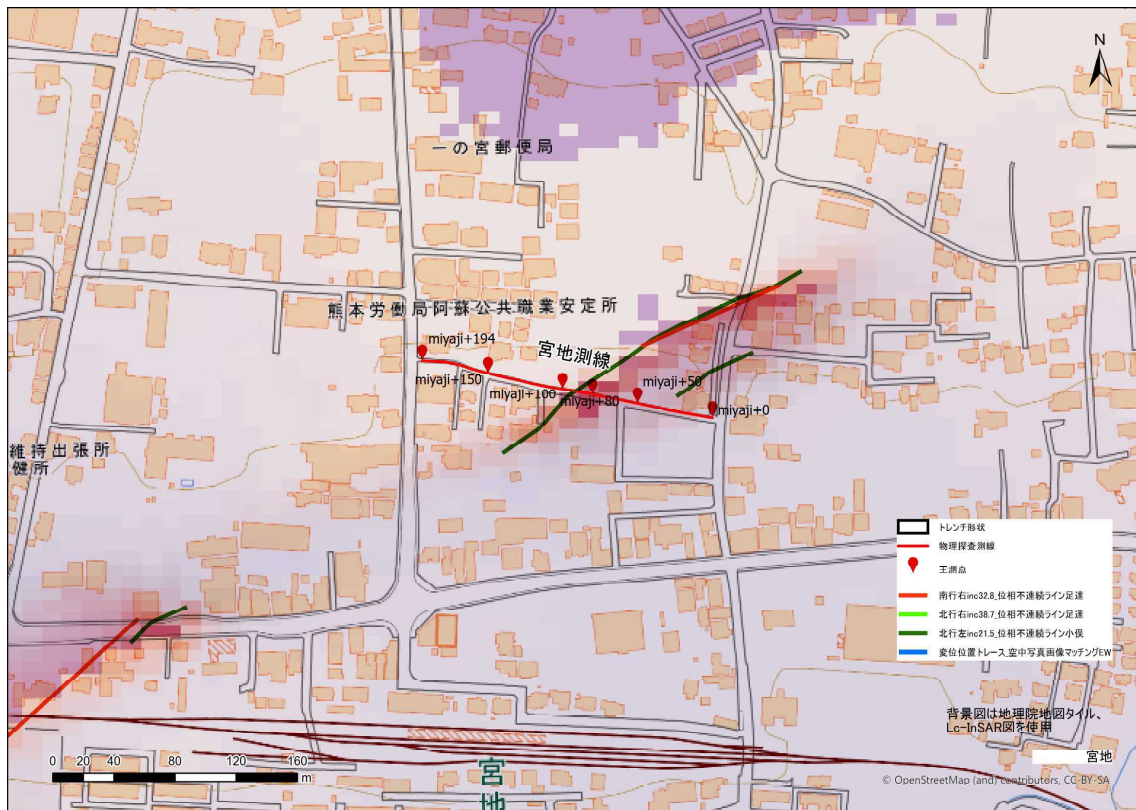


図 2.3.122 探査測線（宮地）

※画像マッチング範囲外

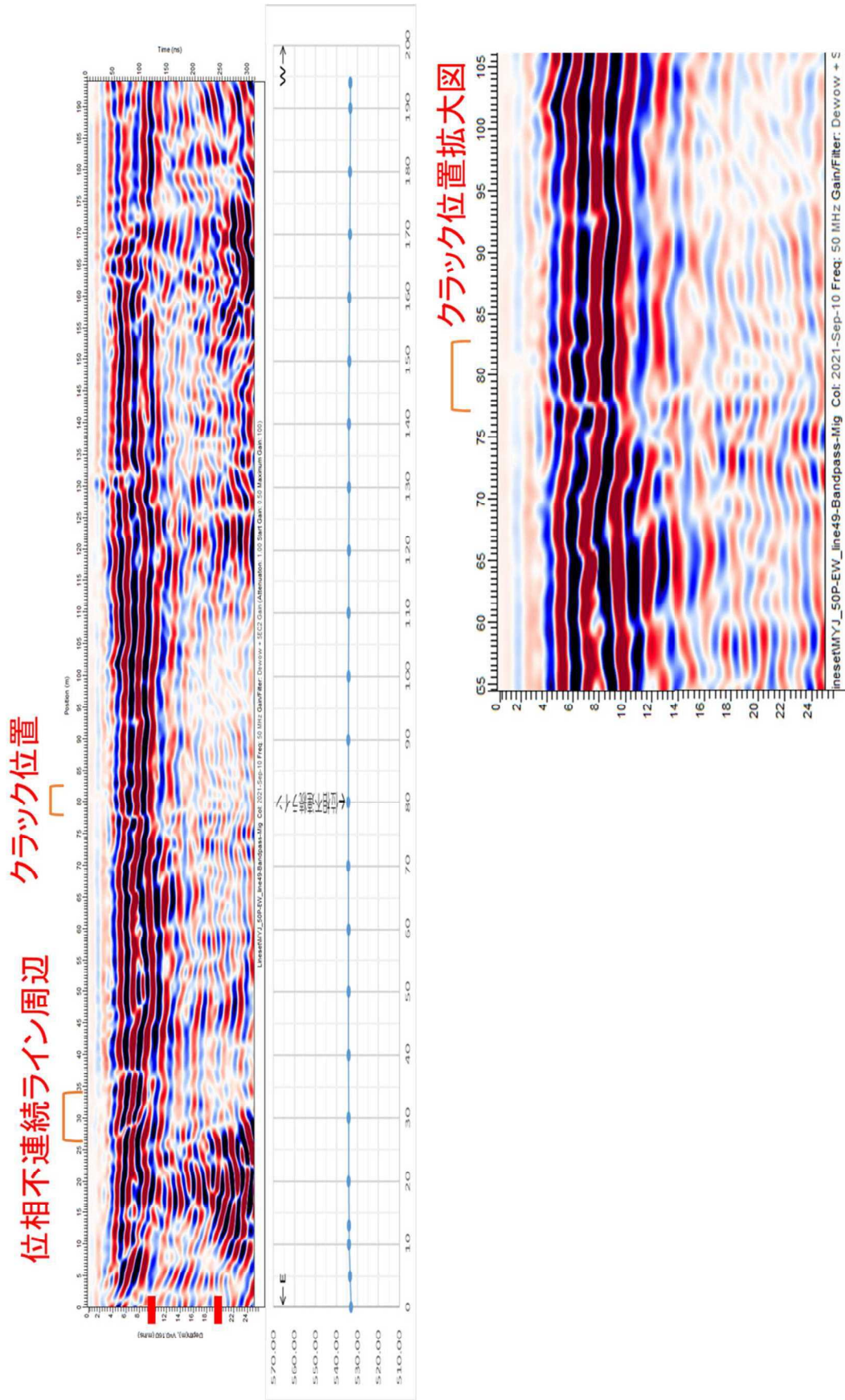


図 2.3.123 宮地地区 探査結果 (GPR\_50MHz)

宮地地区 50MHz 測線

断面は、深度 12m 付近まで、明瞭な反射面（黄色破線）が確認される。反射面の連続性が途切れる範囲では、地下埋設物の反射（水色曲線）が確認される。位相不連続ライン周辺 26~34m の範囲では、反射面の不連続が認められるが、周辺には地下埋設物の反射（水色曲線）がみられることから、確実ではない（赤色破線）。クラック位置 77~83m の範囲では、反射面の不連続がみられるが、周辺には地下埋設物からの反射もあり、確実ではない（赤色破線）。複数箇所を確認される反射強度の多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）。であると推定される（水色破線・水色曲線）。

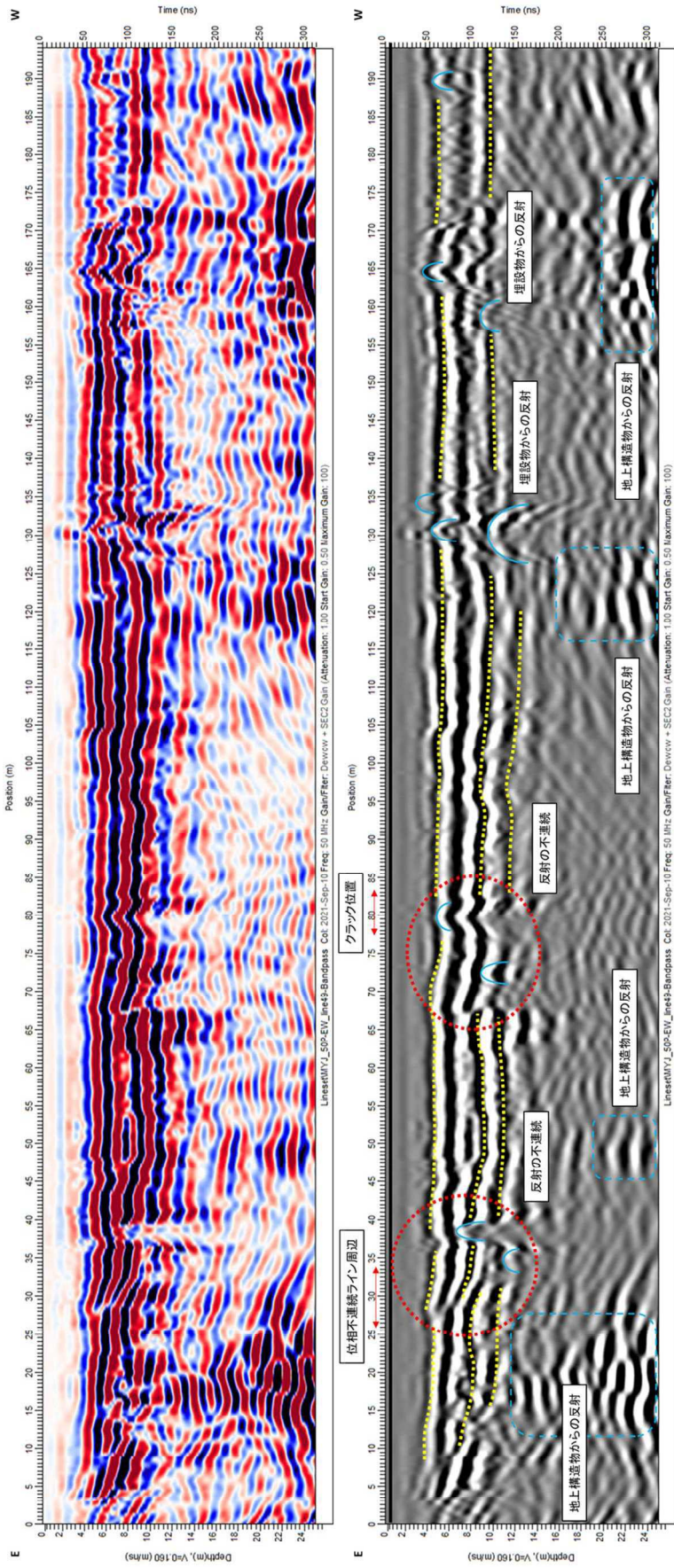


図 2.3.124 宮地地区 50MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）



(14) 新小屋地区

新小屋地区では地中レーダ探査 (50MHz) を実施した。調査内容を以下より示す。

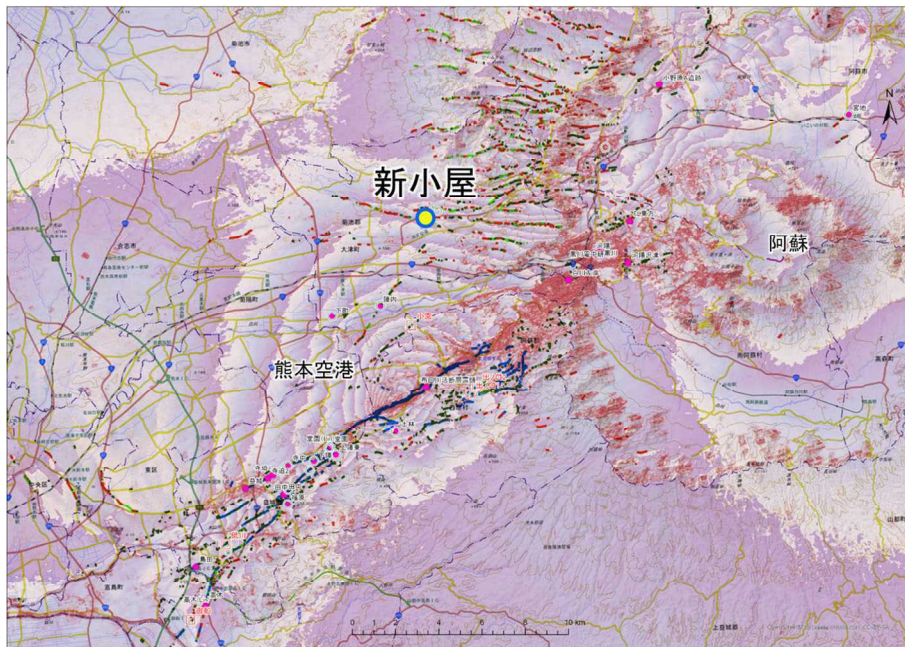
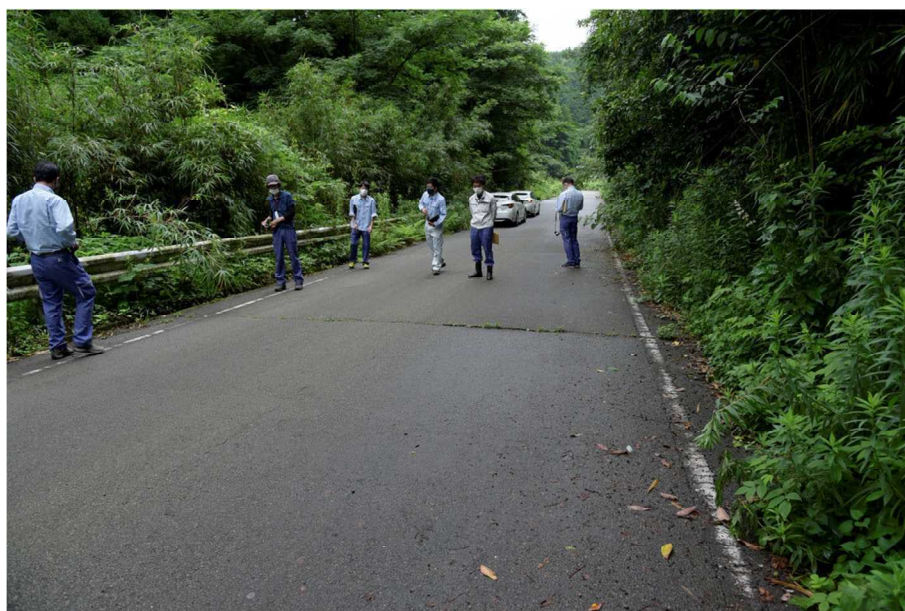


図 2.3.125 調査位置図 (新小屋)



車道沿い北向き視点(国道より北側)

図 2.3.126 現地状況 (新小屋)

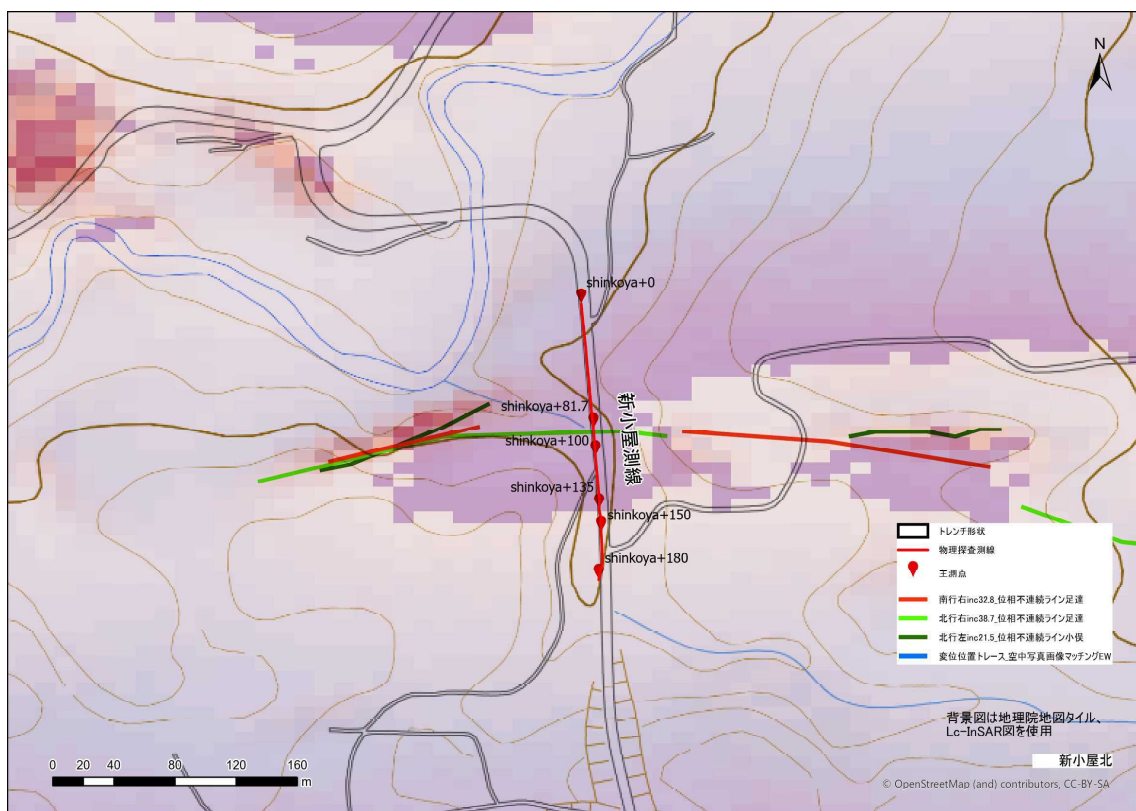


図 2.3.127 探査測線（新小屋）

※画像マッチング範囲外



### 新小屋地区 50MHz 測線

断面は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物や地下埋設物の反射（水色破線・水色曲線）の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。反射面（黄色破線）は、測線位置 65-80m・155-180m の範囲で確認されるのみで、ほかの範囲では、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）との区別が困難である。クラック位置をみると、反射面の不連続が認められるが、周辺には地下埋設物の反射（水色曲線）がみられることから、确实ではない（赤色破線）。断面全体にわたって確認される直線状の反射形状や反射強度の強い塊状の反射、双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）であると推定される（水色破線・水色曲線）。

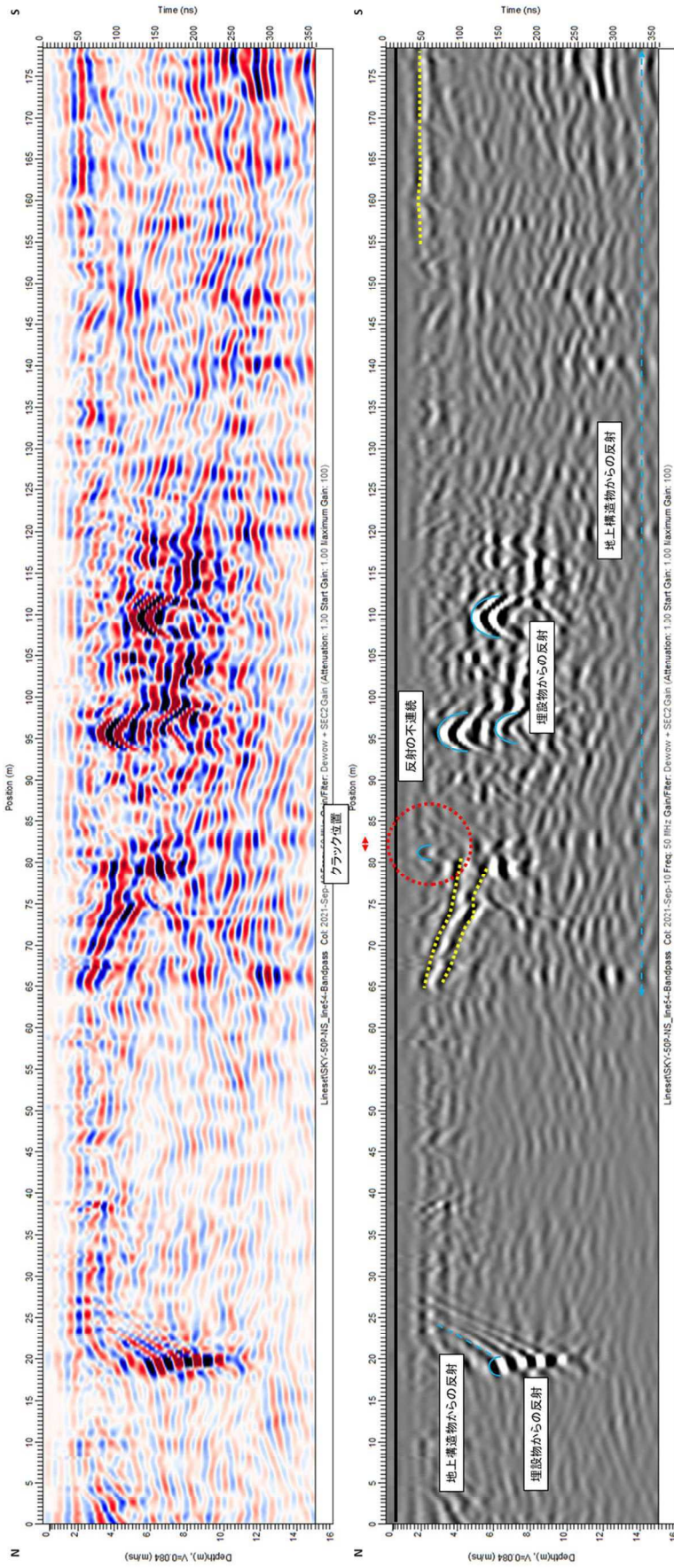


図 2.3.129 新小屋地区 50MHz 断面解積図（上：データ処理後カラー断面、下：解積断面グレースケール）

(15) 宮山地区

宮山地区では地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

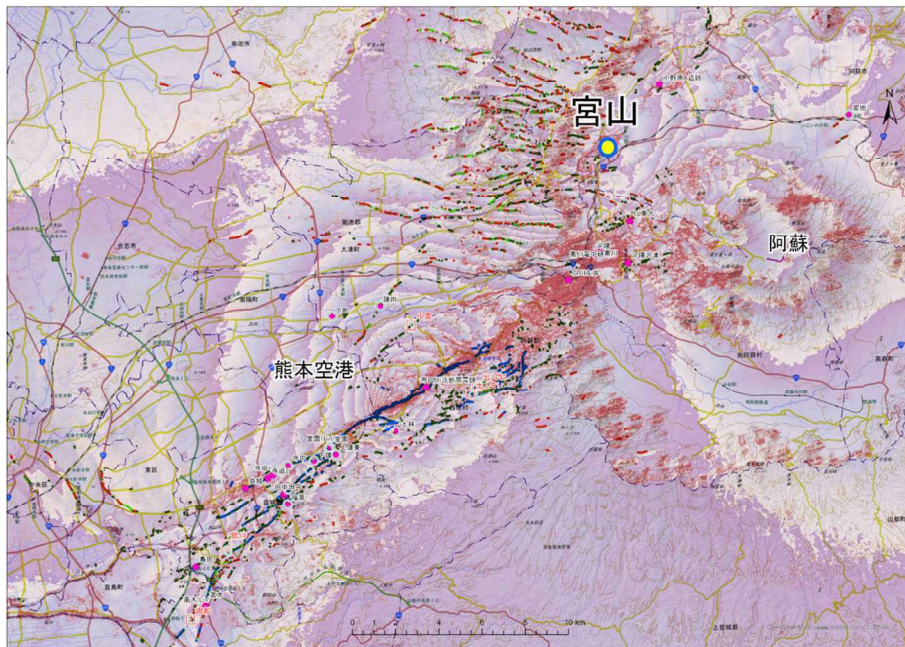


図 2.3.130 調査位置図（宮山）



農道沿い南東向き視点

図 2.3.131 現地状況（宮山）

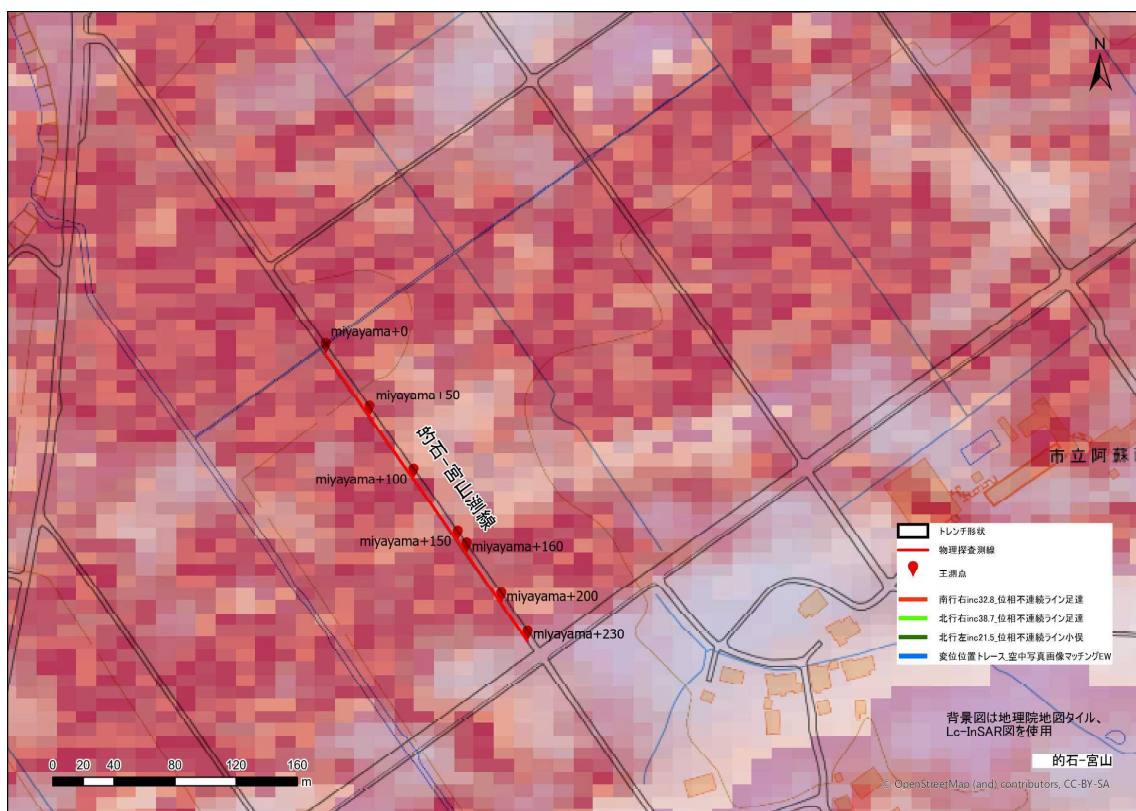


図 2.3.132 探査測線（宮山）

※画像マッチング範囲外

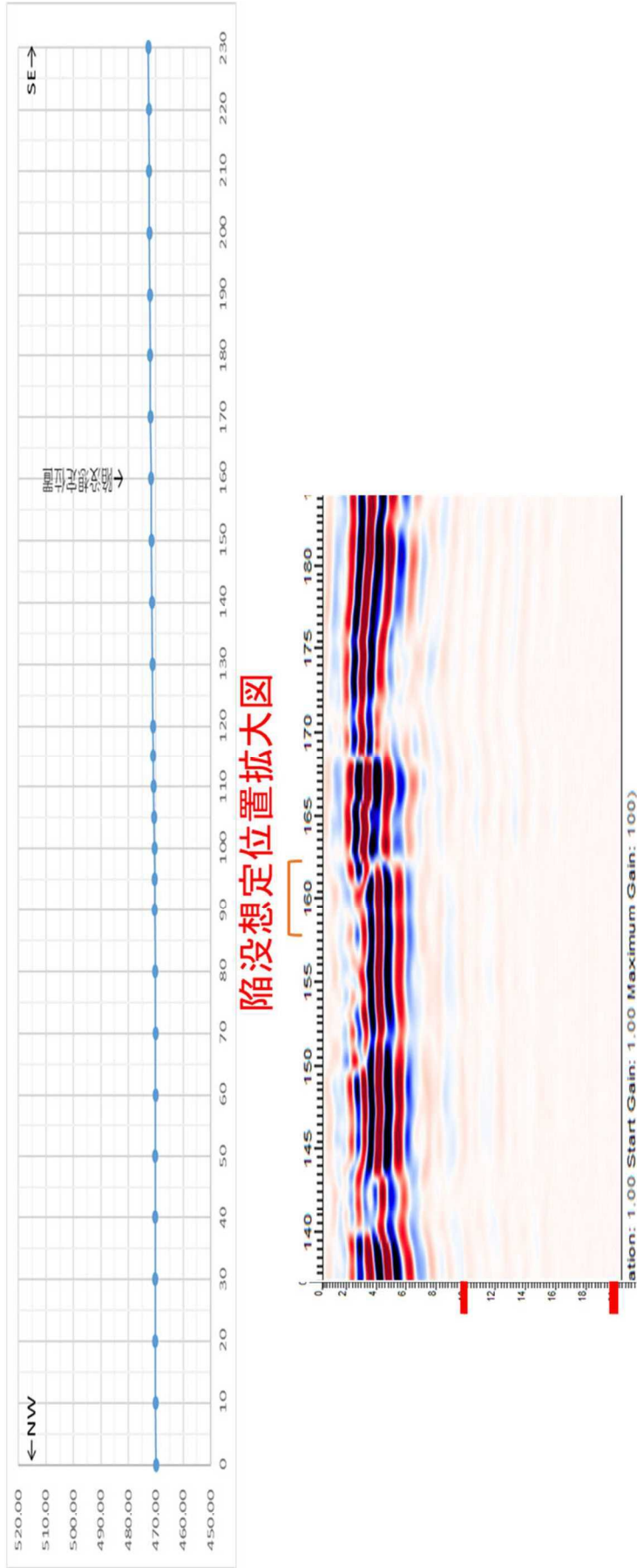
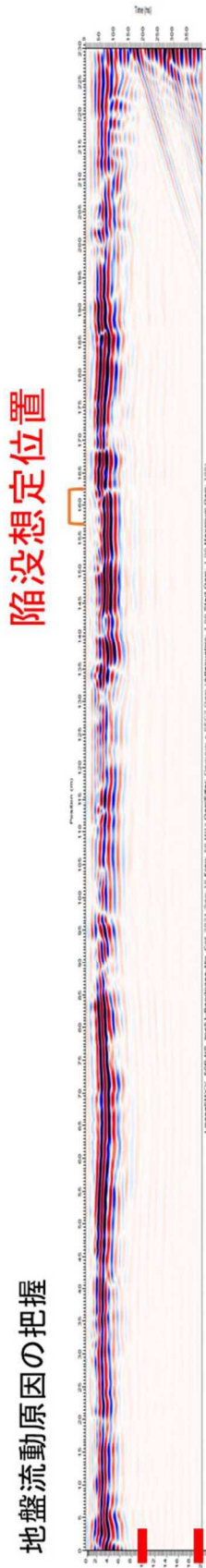


図 2.3.133 宮山地区 探査結果 (GPR\_50MHz)

### 富山地区 50MHz 測線

断面は、深度 6m の範囲では、比較的明瞭な連続性のよい反射面（黄色破線）が確認される。反射面の連続性が途切れる範囲では、地下埋設物からの反射（水色曲線）がみられる。陥没想定位置 158-162m の範囲では、反射面の不連続が確認される（赤色破線）。

この不連続は、断層変位または強震動によって生じた可能性がある。複数箇所を確認される直線状の反射形状や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射（水色破線・水色曲線）であると推定される。

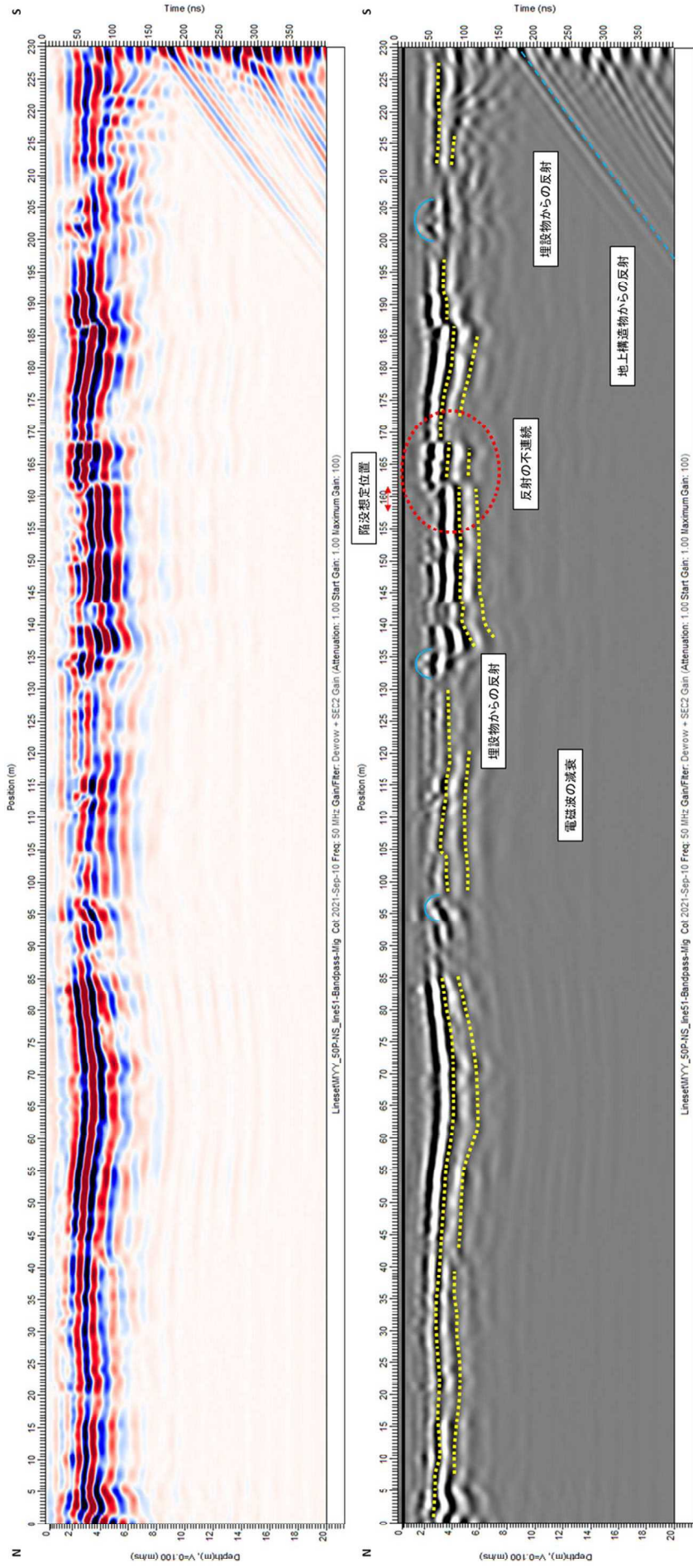


図 2.3.134 富山地区 50MHz 断面解釈図（上：データ処理後カラー断面、下：解釈断面グレースケール）



(16) 内牧地区

内牧地区では地中レーダ探査（50MHz）を実施した。調査内容を以下より示す。

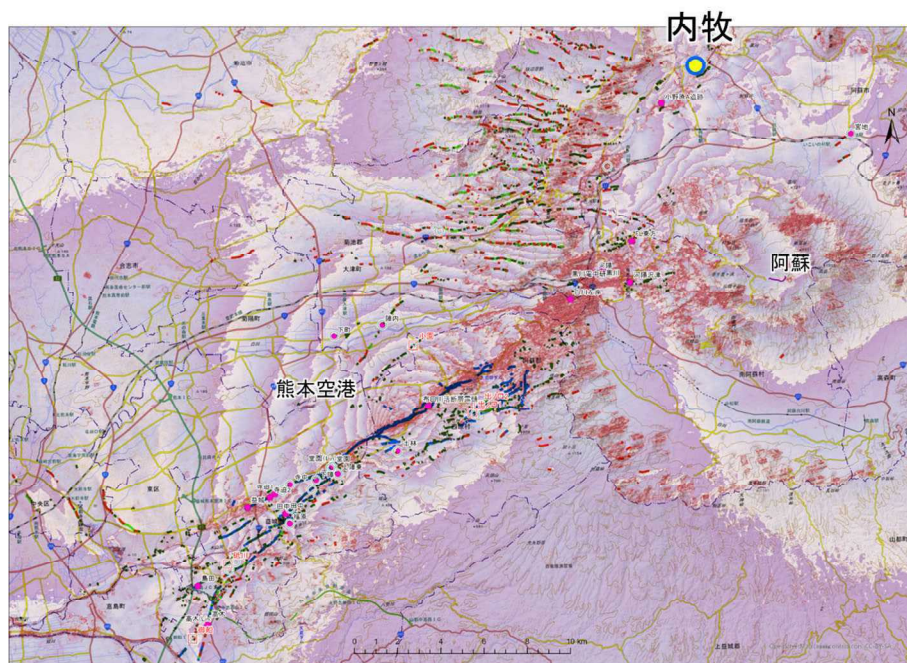


図 2.3.135 調査位置図（内牧）



図 2.3.136 現地状況（内牧：道路測線状況）



図 2.3.137 現地状況（内牧：商業施設測線状況）

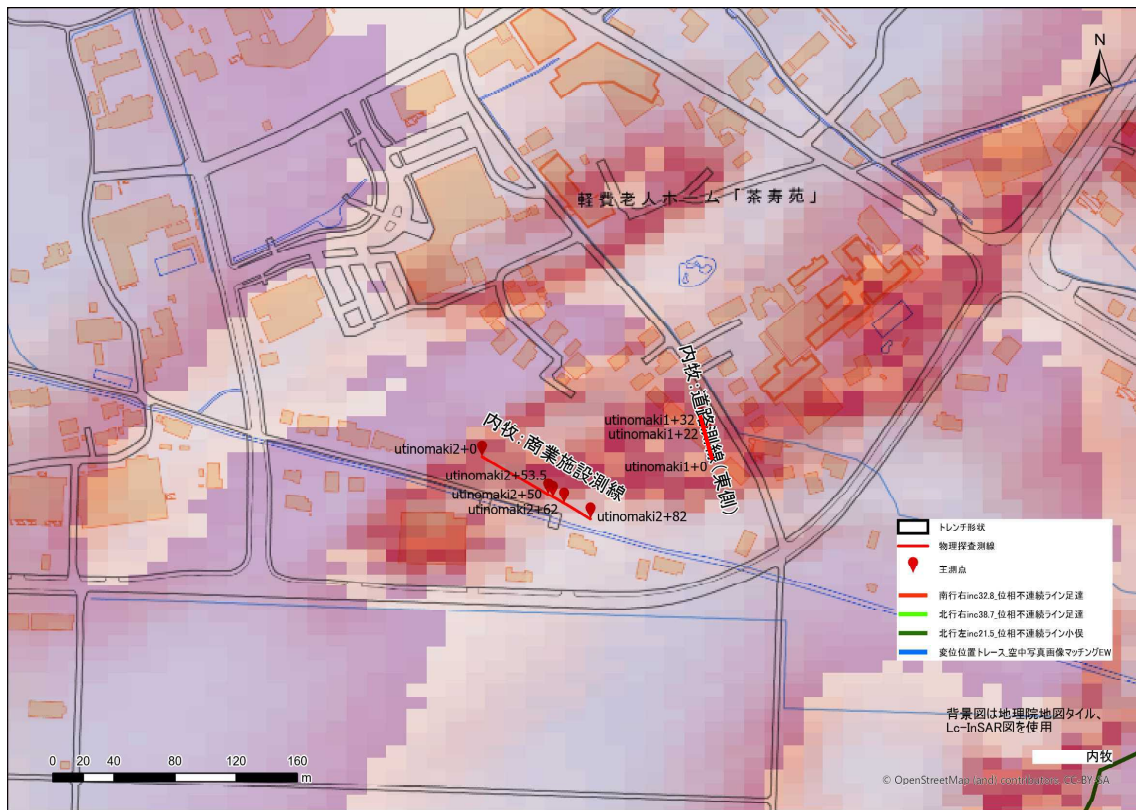


図 2.3.138 探査測線 (内牧)  
※画像マッチング範囲外

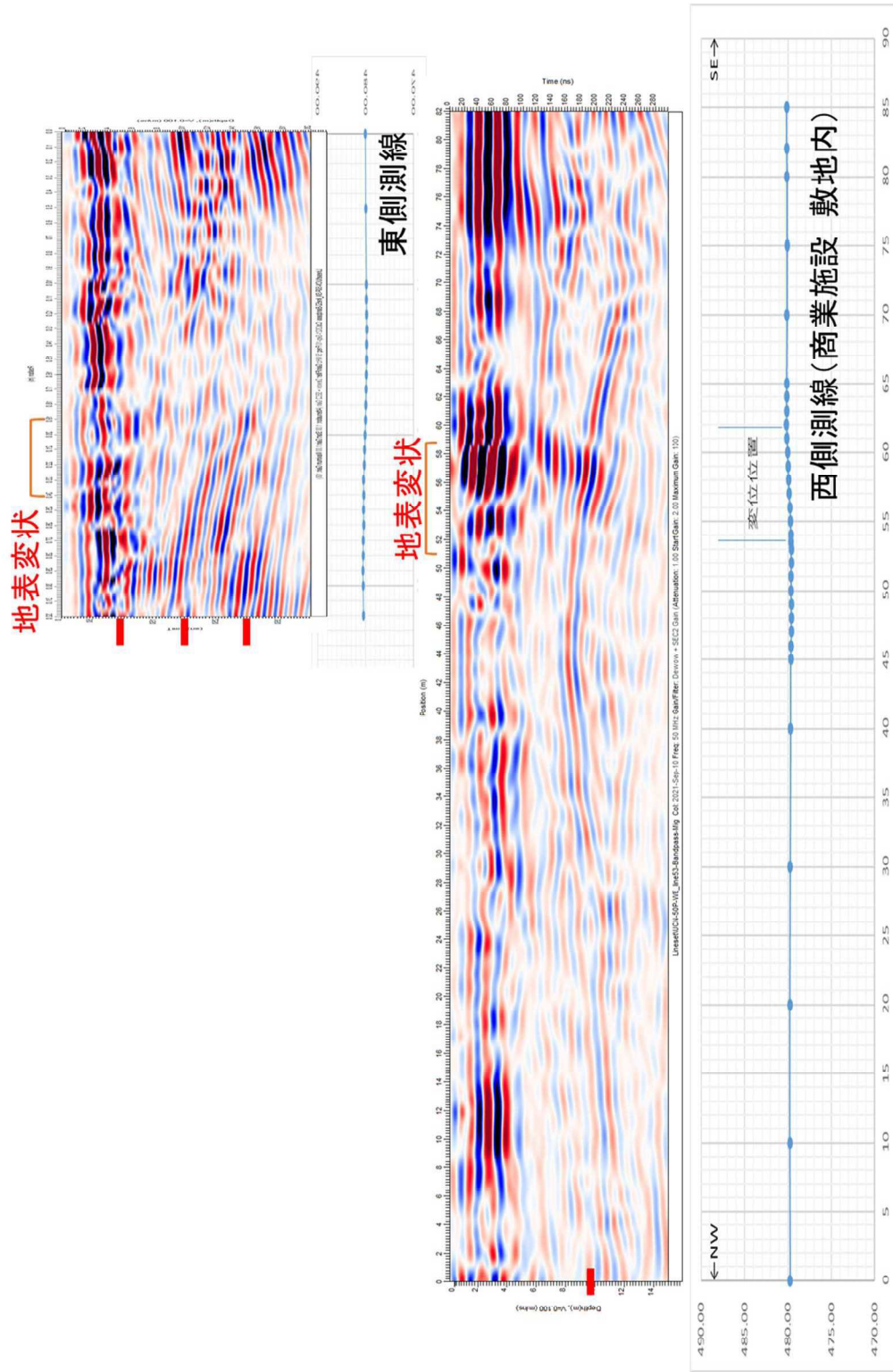


図 2.3.139 内牧地区 (東西断面比較、東側は左右を反転させてある) 探査結果 (50MHz)

内牧地区 50MHz 測線 (東側測線)

断面は、深度 5m の範囲では、比較的明瞭な連続性のよい反射面 (黄色破線) が確認される。深度 5m 以深は、電磁波の減衰が大きく、また地上構造物の反射 (水色破線) の影響を受けているため、良好な記録が得られていない。地表変状位置をみると、測線位置 15-24m の範囲では、反射の不連続が確認される (赤色破線)。この不連続は、断層変位または強震動によって生じた可能性がある。

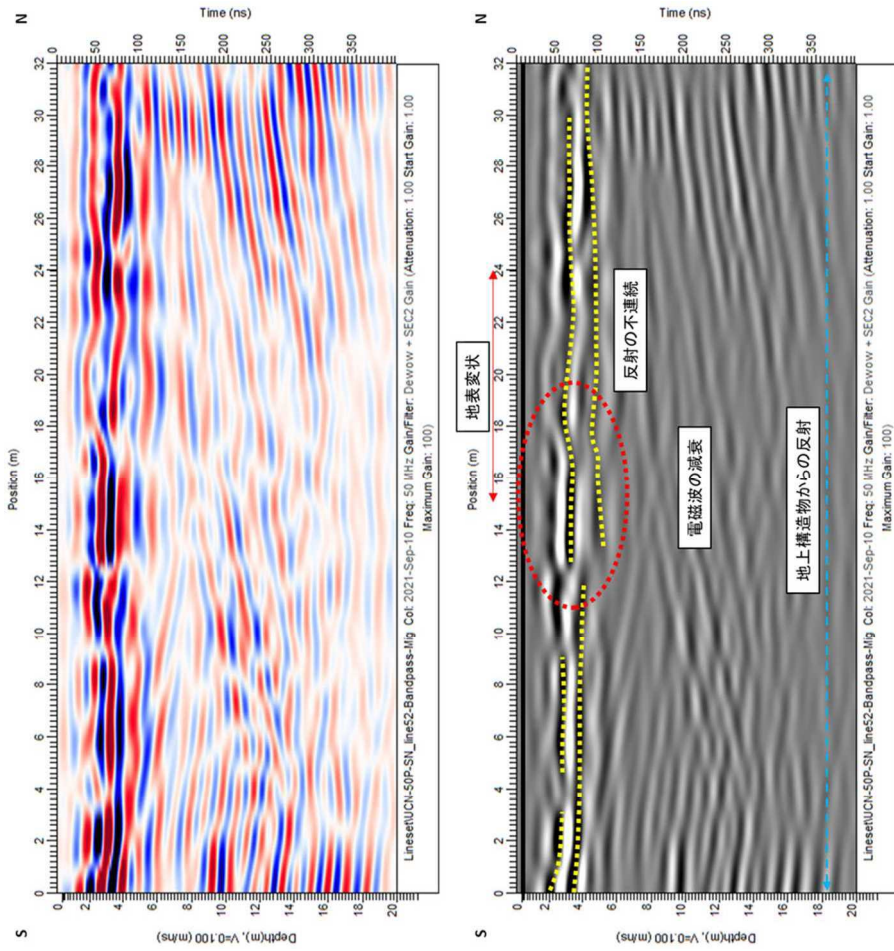


図 2.3.140 内牧地区 (東側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)

内牧地区 50MHz 測線 (西側測線)

断面は、深度 5m の範囲では、比較的明瞭な連続性のよい反射面 (黄色破線) が確認される。深度\*5m 付近を境に、それ以深では電磁波が大きく減衰する。地表変状位置をみると、測線位置 51-59m の範囲では、反射の不連続が確認される (赤色破線)。この不連続は、断層変位または強震動によって生じた可能性がある。複数箇所を確認される反射強度の強い多重反射や双曲線状の反射形状は、地上構造物や地下埋設物からの反射 (水色破線・水色曲線) であると推定される。

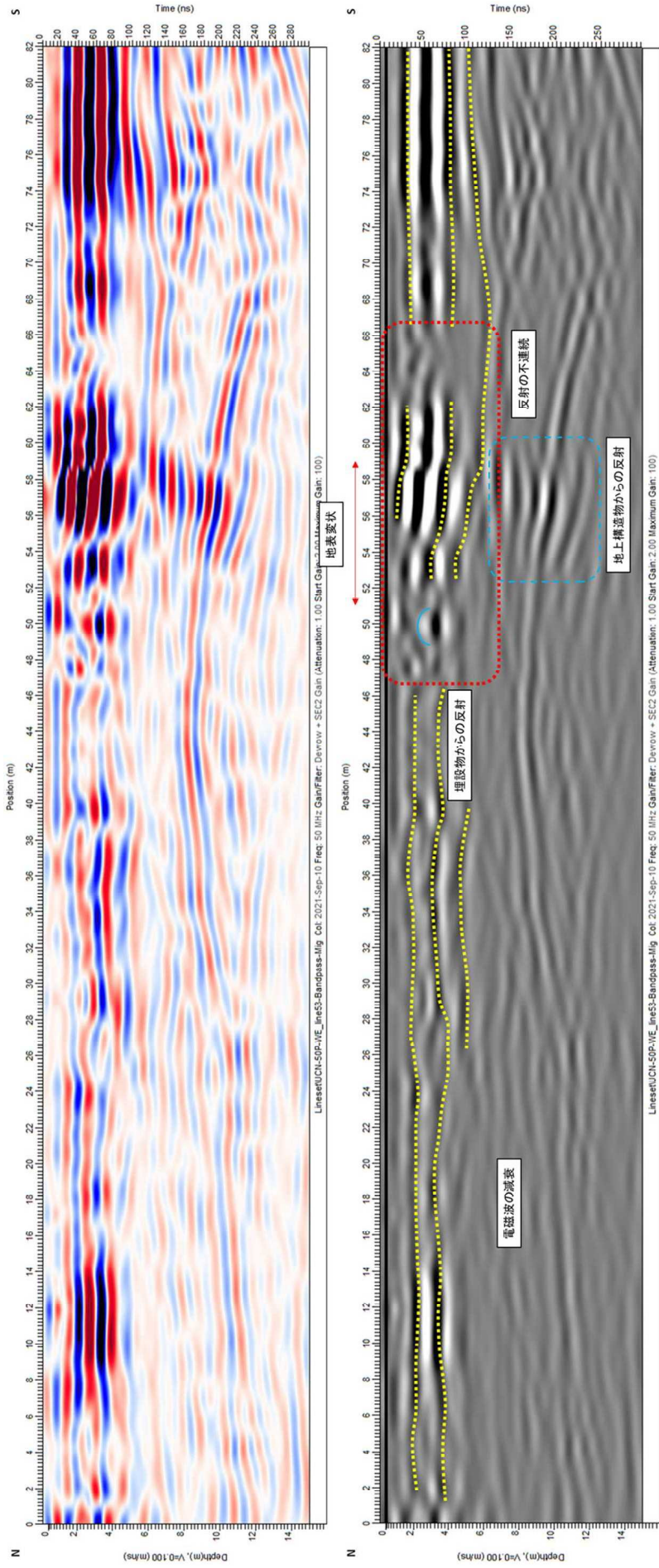


図 2.3.141 内牧地区 (西側測線) 50MHz 断面解釈図 (上: データ処理後カラー断面、下: 解釈断面グレースケール)